

授 業 科 目 名	老 年 心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習（講義内にて）・事例検討
科 目 の 目 的	高齢者の心理特徴の基本的知識を習得することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	① 老化の概念を習得する。 ② 生涯発達の観点から老年期の身体、感覚機能、記憶、注意と知覚、知能、人格について学習し、精神的疾患に関する老年精神医学的知識と死の問題について、高齢者の客観的理解に役立つ心理査定法と心理療法について考える。 ③ 高齢者の生き甲斐感や高齢者を取り囲む家族対人関係についての理解を深める。
関 連 科 目	心理学 発達心理学 成人・老年看護学概論
成 績 評 価 方 法	定期試験に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ライフサイクル(1)	生涯発達心理学について		
2	ライフサイクル(2)	成人期の課題		
3	ライフサイクル(3)	老年期の課題		
4	老化	老化とは何か		
5	高齢者の記憶・知覚と注意	記憶の種類と高齢者の特徴、知覚と加齢の関係、地方性老人のスクリーニングテスト、行動評価スケールなどについて		
6	加齢と知能・人格	知能の発達と加齢の関係、老年期の知能の特色、老年期の人格的特徴、高齢者を対象とした知能検査、高齢者を対象にした心理療法について		
7	老年期の適応	人格特徴と適応の関係、ストレスフル・ライフイベントと適応の関係、高齢者とその家族、高齢者を取り囲む社会的状況		
8	老年期の精神的老化と精神障害	器質性精神障害、機能的な精神障害など		
9	死にゆく過程(1)	死の受容(1)		
10	死にゆく過程(2)	死の受容(2)		
11	死にゆく過程(3)	死の受容(3)		
12	生き甲斐(1)	生き甲斐の心理学(1)		
13	生き甲斐(2)	生き甲斐の心理学(2)		
14	高齢者の主観的幸福感	主観的幸福感とその意味		
15	定期試験	筆記		

教 科 書	「老年心理学」 下仲順子 編 (培風館)
参 考 書	講義中に随時紹介する

授業科目名	スポーツ科学実習	単位認定者	近藤 照彦
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	高山キャンパスの体育館、高山運動公園グラウンドおよび高山キャンパス周辺において、健康づくりを実践するための実技を行う。からだの調整(コンディショニング)としてウォーキングを中心に行い、次第に個人の体力レベルとモチベーションを高めることを目標とする。スポーツは、体育館およびグラウンドで行える選択制のレクリエーション・スポーツとする。
科目の目的	健康スポーツ理論の実践として健康増進、体力向上のための運動を行う。生涯スポーツ、レクリエーション参加を通じた生活の質の向上を実践する。スポーツの実践を通してクラブ活動やスポーツ大会参加などの社会参加を養う。
学習到達目標	健康のための運動の実践と体力の向上を到達目標とする。集団行動における協調性やコミュニケーションを養うことも目標とする。
関連科目	スポーツ科学
成績評価方法	出席、意欲、態度および実技能力での総合評価とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ガイダンス	講義概要の解説・大講義室		
2	実技	体力調整・ウォーキング		
3	実技	体力調整・ウォーキング		
4	実技	体力調整・ウォーキング		
5	実技	12分間走テスト		
6	実技	テスト予備日		
7	実技	レクリエーション・スポーツ		
8	実技	レクリエーション・スポーツ		
9	実技	レクリエーション・スポーツ		
10	実技	レクリエーション・スポーツ		
11	実技	レクリエーション・スポーツ		
12	実技	レクリエーション・スポーツ		
13	実技	レクリエーション・スポーツ		
14	実技	レクリエーション・スポーツ		
15	実技	レクリエーション・スポーツ		

教科書	使用せず
参考書	

授 業 科 目 名	医 療 英 語 ・ 外 書 講 読	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	テキストに沿って進める。精読。
科 目 の 目 的	医療・看護分野の文献を読みこなせる英文読解力の向上。
学 習 到 達 目 標	正確により速く英文を読む力をつける。 医療関連分野の英語語彙の習得。
関 連 科 目	【関連する教養科目】— 総合英語 英語表現 英語基礎 国際医療協力英語 【関連する専門基礎科目】— 国際医療協力 災害時生活体験 救急法
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	Introduction	授業の説明、Chapter 1 Triage を読み始める。		
	Chapter 1			
2	Chapter 1			
3	Chapter 1	Chapter 1 の video を見る。		
4	Chapter 2	Chapter 2 A Little Too Greene を読む。		
5	Chapter 2			
6	Chapter 2			
7	Chapter 2			
8	Chapter 2			
9	Chapter 2			
10	Chapter 2	Chapter 2 の video を見る。		
11	Chapter 3	Chapter 3 High Drama を読む。		
12	Chapter 3			
13	Chapter 3			
14	Chapter 3	Chapter 3 の video を見る。		
15	まとめ	Special Topics		

教 科 書	「Episodes from ER 医療ドラマ ER で学ぶ英語」 田中芳文 編 (朝日出版社) 2002年
参 考 書	英和辞書

授 業 科 目 名	国 際 医 療 協 力 英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	プリントに沿って進める。
科 目 の 目 的	多文化理解、臨床場面における英語のコミュニケーション能力の向上。
学 習 到 達 目 標	1年次から学んだ医療現場における英語表現の定着。 世界の様々な国の医療、看護、福祉、社会問題に関する実情を知り理解する。 リスニング力向上。
関 連 科 目	【関連する教養科目】—医療英語・外書講読 総合英語 英語表現 英語基礎 【関連する専門基礎科目】—国際医療協力 災害時生活体験 救急法
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	Introduction	授業の説明		
2	Reading-多文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
3	Conversation	女性の健康に関する表現		
4	Reading-多文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
5	Conversation	女性の健康に関する表現		
6	Reading-多文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
7	Conversation	子供の健康に関する表現		
8	Reading-多文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
9	Conversation	子供の健康に関する表現		
10	Reading-多文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
11	Conversation	心のケア、文化や宗教の違いに関する表現		
12	Reading-多文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
13	Conversation	心のケア、文化や宗教の違いに関する表現		
14	Reading-多文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
15	まとめ	Special Topics		

教 科 書	プリントを使用
参 考 書	英和辞書

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義、グループでの会話練習等。
科 目 の 目 的	「読む、書く、聞く、話す」の四能力のうち、特に「聞く、話す」に重点を置きながら、日常会話ができる語学力を習得させる。また、中国語学習を通じて、中国の社会状況、地理、文化、歴史、生活習慣などを理解する。多文化多言語が共生する現代社会の中で、一国際人として、それに適応できる語学力を身につけたい。
学 習 到 達 目 標	中国語の難関は発音と四声である。それを習得するには、毎日の練習と個々の指導が不可欠である。テキストの例文を使って、文法形態を理解してもらおう。また日本語と違うところも判ってもらおう。会話を中心に楽しく勉強できる雰囲気を作り、日常会話ができる基礎づくりを目標とします。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	学期末に筆記試験を行う。出席数、受講時の学力と試験成績を参考の上、成績を評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	発音の基本	1. ガイダンス、母音、四声		
2	発音練習	2. 母音、子音、四声		
3	発音練習	3. 音節表の読む練習		
4	レッスン1, 2	4. 挨拶、自己紹介		
5	レッスン3, 4, 5	5. 数字、曜日		
6	レッスン6, 7	6. 時刻、月日		
7	日常会話1,	7. 動詞「是」の用法		
8	日常会話2	8. 指示詞と疑問詞		
9	日常会話3, 4	9. 副詞		
10	日常会話5, 6	10. 動詞「有」の用法		
11	日常会話7	11. 動詞「在」の用法		
12	日常会話8	12. 年齢の尋ね方		
13	日常会話9	13. 値段の尋ね方		
14	日常会話10	14. 形容詞の表現		
15	期末テスト	15. テスト		

教 科 書	「いちばんわかりやすい基本の中国語」伊藤醇 (成美堂)
参 考 書	

授 業 科 目 名	ハ ン グ ル	単 位 認 定 者	金 福 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	韓国語の基礎を学ぶとともに、韓国の社会や文化への理解を深める。
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・あいさつをはじめ、身近で簡単な日常会話を身につける。
関 連 科 目	国際関係論
成 績 評 価 方 法	定期試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
		<p>韓国語は言語構造が日本語と非常によく似ていることから学びやすい言語といえる。しかし、表記された文字と実際の発音が異なることも多いため、正確な発音を習得するまでには少々時間を要する。そこで、発音の練習を徹底的に行いながら、基本文法や語彙、会話を体系的に学んでいく。</p> <p>前半は読む力・書く力を養うとともに、身近で簡単な日常会話を身につけていく。後半には映画を鑑賞することを通し、聞く力を養っていく。おりにふれて、韓国の社会や文化についてビデオを通して学ぶ。</p>		
1	ガイダンス	<p><文字と発音></p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語に関する基礎知識：ハングルとは？ ・基本母音字・基本子音字：発音練習 ・合成母音字：発音練習 ・パッチム：発音練習 ・映像資料を通して韓国文化を学ぶ <p><文法と会話></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介に関する表現「～は～です」 ・物や人について尋ねる表現「～は～ですか」 ・場所・持ち物に関する表現「あります・います/ありません・いません」 ・日常生活・習慣に関する表現「します、しません」 ・韓国映画を通して聞き取り練習 ・筆記試験 		
2	基本母音・基本子音			
3	合成母音			
4	パッチム			
5	韓国の文化紹介			
6	第1課 (1) (2)			
7				
8	第2課 (1) (2)			
9				
10	第3課 (1) (2)			
11				
12	第4課 (1) (2)			
13				
14	ヒアリング			
15	定期試験			

教 科 書	「よくわかる韓国語 STEP①」 入佐信宏・文賢珠 著 (白帝社) CD付
参 考 書	「携帯版 韓国語会話とっさのひとこと辞典」 金裕鴻 著 (DHC刊)

授 業 科 目 名	ス ペ イ ン 語	単 位 認 定 者	加 藤 伸 吾
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	日本に滞在するスペイン人・ラテンアメリカ人移民との相互理解のための手段を身につける スペイン語圏諸国に行った際、現地人との相互理解のための手段を身につける
学 習 到 達 目 標	スペイン語の初歩的知識を習得し、それに基づいた簡単なコミュニケーションができるようにすること スペイン語圏諸国の政治・経済・文化について、ごく初歩的な知識を身につけること
関 連 科 目	国際関係論
成 績 評 価 方 法	出席及び授業態度：4割 小テスト（4回）：3割 期末テスト：3割

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	はじめに	今なぜスペイン語？		
2	アルファベット あいさつと自己紹介	スペイン語27のアルファベットと読み方 簡単なあいさつと自己紹介(「やあ!」「はじめまして」 「ありがとう」「さようなら」など)		
3	復習と小テスト(1)	1回・2回目の復習と小テスト		
4	スペイン語の動詞 「～である」	動詞の「活用」について ser 動詞と estar 動詞		
5	質問しよう(1)	Sí/No 疑問文・疑問詞の疑問文(1)		
6	復習と小テスト(2)	4回・5回目の復習と小テスト		
7	質問しよう(2)	疑問詞の疑問文(2)		
8	数字 スペインという国	1～99の数字 スペインのごく簡単な紹介		
9	曜日 四季と月	7つの曜日 4つの季節と1月～12月の名前		
10	復習と小テスト(3)	7回・8回目の復習と小テスト		
11	ラテンアメリカとい う地域	ラテンアメリカの代表的な国のごく簡単な紹介		
12	「～がある」 動詞(1)	“Hay ～”の表現 -ar 動詞・-er 動詞・-ir 動詞		
13	復習と小テスト(4)	10回・11回目の復習と小テスト		
14	動詞(2)	gustar 型動詞		
15	好み・感情の表現	10回・12回の復習と応用		
16	病院での会話	病院での典型的な場面を想定した会話の学習と 医療関係のスペイン語単語		
17	総復習と期末テスト	総復習と期末テスト 以上はあくまで予定であり、達成度等に応じて適宜調整する。		

教 科 書	清水憲男『気軽に学ぶスペイン語』NHK出版
参 考 書	辞書：例えば、持ち運びやすいものとして、『ポケットプログレッシブスペイン語辞典』（これ以外の辞書でも可） 大田洋子・肥田章子『病気のときのスペイン語会話 改定新版』学生社（症状別の会話と日本語スペイン語医療用語集） 小林一宏ほか『詳解スペイン語』上智大学出版（文法についてさらに深く学びたい人へ）

授 業 科 目 名	発 達 心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習（講義内にて）・事例検討
科 目 の 目 的	人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について習得する。
関 連 科 目	心理学 老年心理学 小児看護学概論 精神看護学概論
成 績 評 価 方 法	定期試験に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準		
			看 護 師	保 健 師	
1	発達心理学とは	発達心理学の概念の理解	【必修問題】 II 人間の成長と発達 A. 胎児期 a) 形態的発達 B. 新生児期・乳児期 a) 発達の原則 b) 身体の発育 c) 運動能力の発達 d) 栄養 e) 母子関係 C. 幼児期 a) 身体の発達 b) 運動機能の発達 c) 排泄の自立 d) 言語発達 e) 社会性の発達 D. 学童期 a) 運動能力・体力の特徴 b) 社会性の発達 E. 思春期 a) 二次性徴 b) アイデンティティの確立 F. 成人期 a) 社会的責任と役割 b) 生殖機能の成熟と衰退 G. 老年期 a) 運動能力・体力変化 b) 知覚・感覚の変化 c) 認知能力の変化 d) 心理社会的変化 【精神看護学】 1. 精神看護の基本概念 C. 成長発達モデル a) 乳幼児における発達危機 b) 学童期における発達危機 c) 思春期・青年期における発達危機 d) 壮年期における発達危機 e) 老年期における発達危機		
2	乳児期の発達と危機管理	気質という概念の理解と親子関係について			
3	幼児初期の発達と危機管理	1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について			
4	幼児期の発達と危機管理	就学前の子ども発達の特徴と危機の種類とその管理について			
5	学童期の発達と危機管理	学童期の発達課題、社会的発達について			
6	思春期の発達と危機管理	思春期の身体的特徴と危機管理について			
7	青年期の発達と危機管理	青年期の発達の特徴、性に関する問題			
8	青年後期の発達と危機管理	青年後期の発達の特徴、特に自己概念形成(自分探し)に焦点を当てて考察する			
9	青年期の精神障害(1)	対人恐怖・社会恐怖等			
10	青年期の精神障害(2)	摂食障害・スチューデントアパシー等			
11	若い大人の発達課題と危機管理	発達課題の考え方と性差における社会的役割など			
12	壮年期の発達課題と危機管理	壮年期の心理的变化の特徴、家族との関わり、仕事との関わりの変化について			
13	高齢期の発達課題と危機管理	心身の変化、死のとらえ方等			
14	生涯発達	発達心理学を人間の誕生から死までを通して総括する			
15	定期試験	筆記			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			【小児看護学】 目標 1 2. 子どもの成長と発達 a) C. 心理社会的発達	

教科書	「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」 岡堂哲雄編 (金子書房)
参考書	講義中に随時紹介する

授業科目名	免疫・感染症学	単位認定者	伊豫部志津子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	病原微生物と免疫の基礎を理解し、生体防御と感染症の成立、予防、治療について学習する。
学習到達目標	個々の細菌、真菌、ウイルス等の病原性を学ぶと同時に、予防の立場からは消毒法、ワクチン、予防接種を、治療の立場からは化学療法を学習する。一方免疫の基礎にのっとり、病原微生物との係わりあいから感染症が惹き起こされるしくみを知る。近年問題となっている、MRSA、VRE、O157、AIDS、BSE、新型インフルエンザ等の感染症や病院内における日和見感染症についての理解を深める。
関連科目	生物学基礎、疾病の成り立ち、薬理学、臨床検査学、疫学・保健統計
成績評価方法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	感染症の機構	感染症の歴史、病原体の性状と感染症発症の機構	【必須問題】 III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 1. 生命活動《生理学》 A. 人体の構造と機能 d) 感染防御と免疫反応 3. 主要疾患と看護 B. 感染症 a) インフルエンザ b) 多剤耐性ブドウ球菌感染症 c) 腸管出血性大腸菌 d) ウイルス性肝炎 e) 結核 f) HIV 感染症/AIDS 【人体の構造と機能】 目標2: 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 3. 生体の防御機構《生理学》 B. 特異的生体防御反応(免疫系) a) 免疫系の細胞 b) 抗原 c) 液性免疫 d) 細胞性免疫 【疾病の成り立ちと回復の促進】 目標2: 疾病に対する医療と看護 2. 疾病に対する医療と看護《疾病の成り立ち》 D. 健康状態をおびやかす微生物への感染看護の視点 a) 微生物の分布と人体 b) 微生物の種類と特徴 c) 病原微生物の感染経路と潜伏期間 d) 病原微生物に対する化学療法と薬剤耐性菌 e) 病原微生物に対する予防処置と感染防御	【疫学・保健統計】 目標: 疫学および統計学の概念と方法を理解し、これを地域診断に用い、地域保健・地域看護に役立てる基礎的な能力を問う。 6. 感染症の疫学 A. 感染の基礎概念 a) 顕性感染と不顕性感染 b) 混合感染 c) 再感染と二次感染 d) 日和見感染 e) 保菌者と接触者 f) 潜伏期 F. おもな感染症の頻度と分布《疫学・保健統計》 a) 新興・再興感染症(HIV 感染症/AIDS, 結核を含む) b) 性感染症 c) 食中毒
2	感染症の現状	感染症の種類と現状		
3	感染と生体防御(1)	免疫の機構		
4	感染と生体防御(2)	免疫の医療へのかかわり(診断、予防、治療)		
5	感染と生体防御(3)	免疫病		
6	感染症の予防と対策	感染症の予防(消毒、ワクチン)と行政による対策		
7	細菌感染症(1)	細菌の病原性と細菌感染症		
8	細菌感染症(2)	細菌感染症の診断と治療(化学療法)		
9	細菌感染症(3)	病原細菌の種類と疾患		
10	ウイルス感染症(1)	ウイルスの病原性とウイルス感染症		
11	ウイルス感染症(2)	ウイルス感染症の診断と治療(化学療法、免疫療法)		
12	ウイルス感染症(3)	病原ウイルスの種類と疾患		
13	真菌感染症	病原真菌の種類と疾患		
14	原虫感染症	病原原虫の種類と疾患		
15	定期試験	筆記試験		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			E. 人体防御機構への看護の視点 a) 人体の感染防御機構と免疫反応 b) アレルギー疾患 c) 自己免疫疾患および類縁疾患 d) 臓器移植 F. 医薬品等による健康被害 a) HIV 感染症/AIDS b) ウイルス性肝炎 c) クロイツフェルト・ヤコブ病 【社会保障制度と生活者の健康】目標 3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 2. 健康指標と予防 B. 感染症とその予防《疫学・保健統計》 a) 感染症の成立要因 b) 感染症の流行現象 c) 感染症予防の基本 d) 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症新法> e) 院内感染とその予防 h) HIV 感染症/AIDS と性感染症	

教科書	病原体・感染・免疫（南山堂）
参考書	系統看護学講座専門基礎 6（微生物学）

授 業 科 目 名	緩 和 医 療 学	単 位 認 定 者	斎 藤 龍 生
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	緩和医療（ケア）とは、終末期に限らず医療のさまざまな分野で必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつある。がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。
学 習 到 達 目 標	緩和医療（ケア）の歴史と緩和医療（ケア）の基本的考えを知る。 緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。 緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。 緩和医療（ケア）が患者・家族のQOL向上に大きな役割を果たすことを理解する。 終末期における家族ケア、遺族ケアの重要性を理解する。 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。
関 連 科 目	生命倫理・生活学・家族学・地域社会学・解剖学ⅠⅡ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・看護学入門・臨床心理学・リハビリテーション工学基礎・栄養学・カウンセリング・社会福祉地域サービス論・看護学概論・看護過程論・看護ケア方法論・看護アセスメント演習・成人・老年看護学概論・在宅看護活動論
成 績 評 価 方 法	レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	緩和医療学総論	緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介いたします。	【必修問題】 Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 4. 薬物治療に伴う反応 A. おもな薬物の作用と副作用 b) 抗がん薬 h) 麻薬	
2	緩和医学各論	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく	【疾病の成り立ちと回復の促進】 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 2. 疾病に対する医療と看護 B. 異常状態に影響する治療と看護 a) おもな治療薬・麻酔薬と薬理作用 g) 麻薬	
3	緩和医学各論	終末期の栄養管理 地域における緩和医療 鎮静について	【在宅看護論】 目標 2. 在宅における看護実践についての理解を問う。 3. 在宅療養者の状態別看護 D. ターミナル期の療養者 a) 症状コントロール b) 家族支援 c) チーム医療 d) 自己決定への支援 e) 遺族への看護	
4	緩和ケアの実際 ・疼痛緩和の看護	疼痛マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく		
5	緩和ケアの実際 ・他の症状緩和の看護 ・全人的苦痛の緩和	他の症状マネジメントにおける看護の役割 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛（スピリチュアルペイン）のケアについて		
6	緩和ケアの実際 ・家族ケア ・遺族ケア	緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7	緩和医療におけるチームアプローチ	緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種との役割と機能	【成人看護学】 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 目標 3. 成人のケ高レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 5. 終末期の看護 A. 緩和ケア a) 苦痛のアセスメント b) 疼痛コントロール c) QOL (クオリティ・オブ・ライフ) の保障 d) 悲嘆へのケア	
8	レポート	もし、あなたが今、肺がんの末期と診断された場合、何をどう考えどのようにしたいですか。また、残された時間をどのように過ごしたいですか。(死生観)		

教科書	使用せず
参考書	「臨床緩和ケア」 大学病院の緩和ケアを考える会 (青海社) 「緩和・ターミナルケア看護論」 鈴木志津枝/内布敦子 (ヌヴェール) 「ターミナルケア 10 月増刊号わかる できる がんの症状マネジメントⅡ」 ターミナルケア編集委員会 (三輪書店) 「家族看護 特集 終末期患者の家族への看護」 野嶋佐由美/渡邊裕子 (日本看護協会) 「家族看護 特集 遺族に対するケア」 野嶋佐由美/渡邊裕子 (日本看護協会) 「ナースのためのアロマセラピー」 日本アロマセラピー学会看護研究会 (MC メディカル出版)

授 業 科 目 名	臨 床 検 査 学	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療スタッフとして必要な臨床検査の基礎的知識を学習する。
学 習 到 達 目 標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病の診断及び治療を行うための臨床検査の概略を把握する。
関 連 科 目	解剖学 (人体構造) 生理学 (人体機能) を含む各臨床科目
成 績 評 価 方 法	定期試験 (筆記)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	臨床検査とその役割	診断及び治療における臨床検査の重要性を述べる	【社会保障制度と生活者の健康】 目標 4. 人々の健康を守るためのサービス提供期間と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う。 1. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 C. 看護職と関係法規 h) 臨床検査技師, 衛生検査技師等に関する法律 【基礎看護学】 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 3. 診療に伴う技術 A. 診察・検査 c) 検査時の看護 ((尿・便・喀痰・血液の採取および検査, 心電図検査超音波検査, 呼吸機能検査))	
2	臨床検査の流れと医療スタッフの役割	臨床検査はどの様にして行われるか。また、医療チームの役割について解説する。		
3	一般検査	尿、便、体液の検査の説明		
4	血液検査	血沈 (赤沈)、血球、出血、凝固		
5	化学検査 (1)	血清タンパク、酵素、糖代謝、		
6	化学検査 (2)	脂質代謝、胆汁、腎機能、電解質、血液ガス等		
7	免疫・血清検査 (1)	炎症マーカー、自己抗体、細胞性免疫		
8	免疫・血清検査 (2)	免疫グロブリン、アレルギー、腫瘍マーカー等		
9	内分泌検査 (1)	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン		
10	内分泌検査 (2)	副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモン、性腺ホルモン、膵臓ホルモン、消化管ホルモン等		
11	微生物検査及び病理検査	検体の取り扱い方、主な微生物の特徴と病気との関連性及び細胞診、病理組織検査		
12	生理機能検査	循環器機能、呼吸器機能、神経機能と超音波検査		
13	R C P C (1)	症例検討 1		
14	R C P C (2)	症例検討 2		
15	試験			

教 科 書	「系統看護学講座 別巻 6 臨床検査」大久保昭行 編 (医学書院)
参 考 書	「最新臨床検査の ABC」日本医師会編 (医学書院) 2007 「臨床検査提要 23 判」金井正光編 (金原出版) 2005 「検査データの生理的変動 -原理から実践へ-」中甫訳 (医歯薬出版) 2004

授 業 科 目 名	病 態 栄 養 学	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	病態栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、病態栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄等を理解し、疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、講義の内容は医学医療的な内容と深くつながっている。栄養学の基礎から病態栄養学を中心にして、代表的疾患、病態を例に挙げて（糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など）説明する。また、より生活に密接に栄養学がかかわっていることを実感してもらえよう、献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。
学 習 到 達 目 標	1. 基礎医学（解剖学、生理学）に基づいて栄養学の基礎を復習する。 2. 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあつた栄養学的対策を習得する。
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学、栄養学、公衆衛生学
成 績 評 価 方 法	定期試験90% 出席10%

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	臨床栄養学とは	1) 食生活の変遷について戦前から平成の栄養学の考え方の移り変わりについて説明する 2) 栄養学の基礎の復習 3) 臨床調理の基本について簡単に紹介する		
2	栄養の評価法	1) 臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2) 栄養学に関する研究について		
3	疾病と栄養 (1)	肥満とやせ、摂食障害 について 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。		
4	疾病と栄養 (2)	糖尿病と栄養学 近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。		
5	疾病と栄養 (3)	糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 食品成分表や食育の教材も合わせて紹介する		
6	疾病と栄養 (4)	動脈硬化と高脂血症 食品中の脂質の種類とその消化、代謝過程を復習する。動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。		
7	疾病と栄養 (5)	高血圧、循環器疾患 高血圧症は、成人病のなかで20%を占める循環器疾患である。心疾患および高血圧症の成因、治療、病態、		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
8	疾病と栄養(6)	食事療法について講義する。 骨粗しょう症、ミネラル摂取異常 老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のQOLの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。		
9	疾病と栄養(7)	消化器疾患その1 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。		
10	疾病と栄養(8)	消化器疾患その2 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。		
11	疾病と栄養(9)	腎疾患と電解質 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、PHの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。		
12	疾病と栄養(10)	がんと栄養 がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。		
13	疾病と栄養(11)	1) 血液疾患、アレルギーと栄養 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。 2) 嚥下障害について		
14	疾病と栄養(12)	1) 小児、高齢者の栄養 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。 2) 栄養法の実際 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。		
15	試験			

教科書	「臨床栄養学 -食事療法の理論-」(医歯薬出版) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」(文光堂)
参考書	「ナースのための生化学・栄養学」(南山堂)

授 業 科 目 名	リハビリテーション工学基礎	単 位 認 定 者	目 黒	力
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前	期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選	択

指 導 方 法	講義・実習
科 目 の 目 的	リハビリテーション工学とは、工学的手法をリハビリテーションに応用するものであり、その応用範囲はとても広く、リハビリテーションの評価、治療、装具、生活支援など様々なものに応用されている。本科目では、この中でも、身体機能の評価に用いられる工学的手法について扱う。近年、これらは看護学においても多く利用されるようになってきている。将来セラピスト・看護師として、これらの手法を利用できるようにすることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	障害者に対する工学からのアプローチを理解し、その概要を理解する。
関 連 科 目	運動学 生活環境学 日常生活活動学
成 績 評 価 方 法	レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	福祉機器概論とは 工学的基礎	歴史、定義、関連領域との関わり、開発 工学とは、とらえ方、考え方		
2	姿勢保持装置 車いす	シーティング概要 最新車いす事情と解析手法		
3	昇降装置・リフト 福祉車両	ホームエレベーターなど メーカーの取り組み、トピックス		
4	視覚・聴覚障害者に対する福祉機器	音声案内システム、白杖等		
5	コミュニケーション 環境制御装置	トーキングエイドなど 在宅障害者を含むベッド周辺の福祉機器		
6	ハウスアダプテーション	住宅の改造とその手法		
7	自助具 ネットワークとPC	パーソナルコンピューター、インターネット		
8		まとめ		

教 科 書	「バリアフリーのための福祉技術入門」足立芳寛（オーム社）
参 考 書	講義の中で紹介する

授業科目名	疫学・保健統計	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 2 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。
学習到達目標	①疫学研究方法の基本及び疫学指標を理解する。 ②感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。 ③健康問題の標準的な解析方法論である保健統計技法を理解する。
関連科目	生命倫理 情報処理 情報学 公衆衛生学 地域社会学 免疫・感染症学 環境論 健康管理論
成績評価方法	定期試験 出席状況

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	疫学概念	疫学の目的、対象、方法	【必修問題】 1. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 A. 人口の動向 a) 総人口 b) 年齢別人口 c) 労働人口 d) 将来推計人口 e) 世帯数 B. 人口動態 a) 出生の動向 b) 死亡の動向 c) 死因の概要 C. 健康状態と受療状況 a) 平均余命 b) 有訴者の状況 c) 受療率 d) 入院期間 2. 健康と生活 A. 生活習慣 a) 食事・栄養 b) 睡眠 c) 運動 d) 飲酒 e) 喫煙 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 3 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保護活動の進め方についての理解を問う。 1. 健康と公衆衛生 C. 疫学的方法による健康の理解 a) 健康被害と母集団 b) 疫学的因果関係の推定 c) 臨床疫学とエビデンス 2. 健康指標と予防 A. 健康に関する人口動態 c) 出生 d) 死亡・死因 e) 死産、周産期死亡、乳児死亡 f) 平均余命、平均寿命 g) 健康寿命 h) 有病率・罹患率 B. 感染症とその予防 a) 感染症の成立要因 b) 感染症の流行現象 c) 感染症予防の基本 d) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症新法） e) 院内感染とその予防 f) 予防接種法 g) 結核予防法 h) HIV 感染症/AIDS と性感染症	1. 疫学の概念 A. 疫学の定義と分類 a) 疫学の目的・対象・方法 b) 疫学と地域保健・地域看護 c) 記述疫学と分析疫学 d) 人・場所・時間 B. 疫学的因果関係 a) 二大要因説と三大要因説 b) 危険因子と多要因原因説 c) 相関関係と因果関係 d) 疫学的因果推論 C. 疾病と健康逸脱の定義 a) 国際疾病分類 b) 診断基準 c) 疫学調査での診断の妥当性 2. 疾病頻度の指標 A. 比 a) 性比 B. 割合 a) 累積罹患割合 b) 累積死亡割合 c) 致命割合 C. 率 a) 罹患率 b) 死亡率 3. 曝露効果の指標 A. 相対危険 a) リスク比 b) レイト比 B. 寄与危険 C. オッズ比 4. 疫学調査法 A. 疫学調査における倫理 B. 調査方法（研究デザイン） a) 生態学的調査 b) 横断的調査 c) 症例対照調査 d) 既往コホート調査 e) コホート内症例対照調査 f) 前向きコホート調査 g) 無作為割付臨床試験 C. 妥当性と精度 D. 偏り（バイアス） a) 選択の偏り b) 情報の偏り c) 交絡 E. 交絡の制御 a) 無作為化（割付） b) 制限 c) マッチング d) 層化 e) 標準化 5. 集団検診の原理と方法 A. スクリーニング a) 敏感度と特異度 b) 信頼性と妥当性 c) 陽性反応的中度 B. スクリーニングを行う要件 6. 感染症の疫学 B. 流行の概念 a) 人・場所・時間と流行 b) 長期間での流行の変化 C. 三大要因と予防対策 a) 病原体と病原体対策
2	疫学の歴史	疫学の沿革、歴史的考察		
3	疫学の要因	疫学の三要因、二元論の疫学		
4	人間集団の健康現象	記述疫学と分析疫学、5WBridge		
5	頻度と曝露	疾病頻度の指標、曝露効果の指標、相対危険、寄与危険		
6	疫学調査法	前向き調査と後向き調査、疫学調査の留意点		
7	同上	バイアスと交絡		
8	同上	疫学的因果推論 疫学の倫理		
9	スクリーニング	敏感度、特異度、陽性反応的中率		
10	感染症疫学	感染の基礎概念、流行の概念、三大要因と予防の原則		
11	同上	わが国の感染症対策沿革、衛生行政への展開		
12	同上	世界の状況、新興再興感染症		
13	同上	食中毒の疫学調査、細菌性食中毒		
14	同上	防疫活動要領、予防接種		
15	同上	新感染症予防法、I 類感染症		
16	同上	結核の状況		
17	同上	HIV の状況、STD の状況		
18	非感染症の疫学	悪性新生物の疫学		
19	同上	その他の生活習慣病の疫学		
20	同上	環境保健の疫学		
21	同上	環境汚染による健康被害の疫学、PPP の原則		
22	保健統計学の基礎	母集団と標本調査		
23	同上	平均値、代表値、分散、標準偏差		
24	同上	検定、推定、正規分布		
25	同上	関係の指標、相関係数、母平均値の差の検定		
26	人口統計と保健統計	健康指標、世界の人口、人口問題、わが国の人口		
27	同上	人口動態統計、人口静態統計、生命表		
28	同上	情報処理のための基礎知識		
29	同上	保健統計 演習		
30	同上	同 上		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
				b) 感染経路と感染経路対策 c) 感受性と感受性対策 D. 感染症・食中毒発生時の疫学調査 a) マスターテーブル E. 感染症の発生動向調査 F. おもな感染症の頻度と分布 a) 新興・再興感染症 (HIV 感染症/AIDS, 結核を含む) b) 性感染症 c) 食中毒 G. 感染症に関するおもな法規 a) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 b) 結核予防法 c) 予防接種法 d) 検疫法 e) 食品衛生法 f) 学校保健法 7. おもな疾患の疫学 A. 心疾患の疫学 B. 脳血管疾患の疫学 C. がんの疫学 D. 糖尿病の疫学 E. 難病の疫学 F. 精神疾患の疫学 G. 母性関連疾患の疫学 H. 小児疾患の疫学 I. 環境 (労働環境を含む) の疫学 ※共通小項目 a) 頻度と分布 b) 危険因子 c) 一次予防と二次予防, 三次予防 8. 統計学の基礎 A. 母集団と標本調査 a) 母集団と標本 b) 無作為抽出 B. おもな分布 a) 正規分布 b) 検定・推定に用いる分布 C. 代表値と散布度 a) 平均値と他の代表値 b) 四分位数とパーセンタイル c) データの範囲 d) 分散と標準偏差 D. 関係の指標 a) 相関と回帰 b) クロス集計と関連の指標 E. 図表による表示方法 a) 度数分布 b) ヒストグラムと他のグラフ表示 c) 相関図 (散布図) と回帰直線 F. 推定と検定 a) 点推定と区間推定 b) 帰無仮説と統計学的有意性 c) 母割合に関する推定と検定 d) 母平均値に関する推定と検定 e) 母相関係数に関する推定と検定 9. 人口統計 A. 人口統計の基礎 a) おもな健康指標 B. 人口静態統計 a) 人口ピラミッド b) 年少人口指数 c) 老年人口指数 d) 老年化指数 C. 人口動態統計 a) 死亡と生命表 b) 出生と人口再生産 c) 婚姻と離婚 10. 保健統計調査 A. 指定統計 a) 国勢調査 b) 人口動態調査 c) 国民生活基礎統計 d) 患者調査 e) 医療施設統計 f) 学校保健統計 B. その他の統計調査 a) 感染症発生動向調査 b) 食中毒統計 c) 国民健康・栄養調査

教科書	「最新保健学講座 7 疫学・保健統計」丸井英二 (メヂカルフレンド社)
参考書	

授 業 科 目 名	救 急 法	単 位 認 定 者	北 林 司
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、心停止・呼吸停止・異物による気道閉塞のような生命が危険にさらされた人を救命する方法を理解する。さらに、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDによる除細動などの一連の救命処置（BLS）が実践できることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 急激に生命が危険にさらされる呼吸器障害、心血管系障害、脳血管系障害が説明できる。 2. 救命の連鎖について説明できる。 3. 一次救命処置（BLS）について説明できる。 4. 気道異物（FBAO）の治療手順を説明できる。 5. AEDを含む一次救命処置（BLS）が実践できる。
関 連 科 目	解剖学・生理学・疾病の成り立ち・基礎看護学・成人看護学・災害看護
成 績 評 価 方 法	筆記試験と実技試験で評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	わが国の救命医療体制	① わが国救命医療体制を理解する。 ② 救急医療従事者（EMS）について理解する。	必修問題 III。看護に必要な人体の機能および健康障害と回復についての基礎知識を問う。	I 人体の構造と機能および心身の発達
2	一次救命処置（BLS）	① 一次救命処置、二次救命処置の区分を理解する。 ② 救命の連鎖について理解する。	1. 生命活動 A. 人体の構造と機能 e. 循環器 f. 呼吸器 g. 神経細胞と情報伝達	D. 神経系 a. 中枢神経系 b. 末梢神経系 E. 脈管系 a. 心臓 b. 動脈系 c. 静脈系
3	呼吸器系、心血管系、脳血管系の解剖と生理学	① 呼吸器系の解剖・生理を理解する。 ② 心血管系の解剖・生理を理解する。 ③ 脳血管系の解剖・生理を理解する。	C. 人間の死 a. 死の三徴候 b. 脳死	F. 内臓諸器官 b. 呼吸器系 G. 感覚器系
4	急性冠症候群（ACS）について	① 急性冠症候群（ACS）を理解する。 ② 急性心筋梗塞（AMI）の症状を理解する。 ③ 胸部不快感を訴える人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。	2. 病態と看護 A. 症状と看護 e. チアノーゼ f. 呼吸困難 g. 胸痛 h. 不整脈	a. 中枢神経系 2. 生理学 C. 筋生理 a. 刺激と興奮 b. 筋の収縮 D. 神経生理
5	急性脳血管障害について	① 一過性脳虚血発作（TIA）について理解する。 ② 虚血性脳血管障害について理解する。 ③ 出血性脳血管障害について理解する。 ④ 急性脳血管障害の可能性のある人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。	i. 血圧上昇、低下 r. ショック 3. 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 b. 虚血性心疾患 c. 高血圧症 d. 脳血管疾患	a. 興奮と伝導 d. 末梢神経 F. 呼吸生理 G. 血液、循環 H. 嚥下、消化、呼吸
6	成人に対する CPR①	① 反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解する。 ② 気道確保の方法を理解する。 ③ 呼吸の有無を確認する方法を理解する。 ④ 人工呼吸の方法を理解する。	C. 外傷 a. 骨折 c. 外傷性ショック	II 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進 1. 病理学概論 D. 循環障害 3. 臨床医学大要（概論） A. 一般臨床医学
7	成人に対する CPR②	① 循環の有無を確認する方法を理解する。 ② 胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解する。 ③ 人工呼吸と心臓マッサージを組み合わせた方法を理解する。	●日常生活を営む上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかについての理解を問う。 ●疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。	a. 問診、身体所見、記録 h. 救急、組成、ICU、CCU i. 外科（腹部、心血管、胸部）疾患 j. 脳神経外科（外傷、血管、腫瘍）疾患 h. 生活習慣病
8	成人に対する CPR③	① 早期除細動の重要性を理解する。 ② AEDの目的を理解する。 ③ AEDの使用方法を理解する。 ④ AEDから「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。	4. 循環系 A. 心臓 a. 心臓と心筋の構造 b. 心臓の機能 c. 刺激伝導系	B. 内科学 a. 症候学と病態生理 b. 診断学 f. 呼吸器疾患 g. 循環器疾患 D. 整形外科学 c. 整形外科の症候と診断

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
9	成人の異物による気道閉塞（FBAO）について	① 成人の異物による気道閉塞の原因を理解する。 ② 反応のある成人の FBAO に対する治療手順を理解できる。 ③ 反応のない成人の FBAO に対する治療手順を理解する。	9.呼吸の機構 A.換気と発生 c.気管、肺の構造と機能 d.呼吸運動 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 3.回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。	e.保存的治療 o.外傷と骨折 p.脊髄・脊椎疾患および損傷 E.臨床神経学 a.脳・神経の構造と生理 b.脳・神経の病態生理 f.脳血管障害 g.外傷性脳損傷
10	CPR 演習 ①	① 成人に対する的確な CPR が実践できる。 ② 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。	1.中枢神経機能の障害 A.脳機能の障害 a.脳血管系の循環障害 b.頭蓋内圧亢進を伴う疾患	4.リハビリテーション医学 B.機能障害の病態生理と回復 b.骨関節損傷 f.脊髄の障害 h.呼吸機能 i.心機能
11	CPR 演習 ②	① 成人に対する的確な CPR が実践できる。 ② 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。	2.生命維持機能の障害 A.生命の危機 a.ショック B.呼吸機能の障害 d.急性および慢性の呼吸不全	E.リハビリテーション医学の臨床 a.脳血管障害 b.外傷性脳損傷 c.脊髄損傷
12	CPR 演習 ③	① 成人に対する的確な CPR が実践できる。 ② 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。	C.循環機能の障害 b.後天的に心機能の障害を引き起こす疾患 c.心筋の酸素欠乏による新機能の障害 d.新機能の低下をきたした状態 e.心臓のリズムの障害	1.呼吸器疾患 m.循環器疾患
13	CPR 演習	① 成人に対する的確な CPR が実践できる。 ② 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。	基礎看護学 目標 2.基本的看護技術についての理解を問う。 3.診療に伴う技術 D.生命の危機にかかわる技術 a.生命徴候のアセスメントと援助方法 b.呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 c.循環管理 d.保温 E.災害看護 a.トリアージ	
14	CPR および FBAO に対する活動の筆記試験	① 一連の CPR、FBAO に対する活動の内容を説明できる。	成人看護学 目標 3.成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 2.急激な身体侵襲により急性期にある成人の看護 A.救急救命時の看護 a.緊急性と原因のアセスメント b.心配蘇生法 e.外傷、熱傷、骨折の応急処置 f.危機状態への精神的支援	
15	CPR および FBAO に対する活動の実技試験	① 一連の CPR、FBAO に対する的確な活動が実践できる。	目標 4.機能障害を持つ成人の看護実践について問う。 1.呼吸機能障害を持つ患者の看護 B.おもな看護 g.呼吸困難時の安楽な体位 2.循環機能障害を持つ成人の看護 A.観察とアセスメント d.障害の原因と程度 7.認知機能・コミュニケーション障害を持つ患者の看護 A.観察とアセスメント a.意識障害の診察法	

教科書	「BLS ヘルスケアプロバイダー（日本語版）」 American Heart Association 著（中山書店）
参考書	

授 業 科 目 名	社会福祉・社会保障制度論	単 位 認 定 者	角 田 傑
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	保健師業務を志すものにとって、関連する法規・制度の理解は必須である。地方分権等変化する社会情勢の中で人間の生命、健康問題、生活問題を根底で支える役割の理解
学 習 到 達 目 標	1 福祉行財政の仕組みを理解する。 2 社会情勢の変化に伴う制度等の変遷を理解する。 3 保健師として理解した法律・制度・福祉援助技術を使いこなす。
関 連 科 目	地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 地域看護活動論Ⅱ 生活学 家族学 法学 地域社会学 経済学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	社会保障・社会福祉の体系 社会保障・社会福祉の発展過程	1 社会保障・社会福祉とは何か 2 社会保障・社会福祉の改革 3 改革される社会保障・社会福祉の仕組み 1 社会保障の前身 2 社会保険の発達 3 社会保障の発展と確立 4 戦後のわが国の社会保障制度の展開	【必修問題】 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 3. 保健医療制度の基本 A. 医療保険制度 a) 保険者 b) 被保険者 c) 給付の内容 4. 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊重 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) インフォームドコンセント e) ノーマライゼーション 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 2. 社会保障の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の健康問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。 1. 社会保障の理念 A. 日本の保健医療福祉活動の基本方向 a) 理念, 憲法第 25 条 b) 人権 c) 倫理 d) ノーマライゼーション e) 情報開示 f) 地方分権 g) 医療費の増大 h) 介護保険・医療保険制度の改革 2. 社会保険制度 A. 社会保険の変遷 a) 歴史, 意義 b) 国民皆保険・皆年金 B. 医療保険制度 a) 健康保険法 b) 国民健康保険法 c) 保険給付の種類 d) 療養の給付内容 C. 介護保険制度 a) 介護保険給付の種類 b) 給付内容 c) 保険者・被保険者 D. 年金制度 a) 年金給付の種類 b) 給付内容 E. その他の社会保険制度 a) 雇用保険 b) 労働者災害補償保険法 3. 社会福祉諸法の理念と施策 A. 社会福祉の理念と変遷 a) 社会福祉法 b) 措置から選択へ c) 受益者負担	3. 地域保健医療福祉行政と保健師活動 C. 社会保障・社会福祉の制度 a) 社会福祉の基本的概要 b) 地域福祉計画とコミュニティ c) 地域福祉権利擁護 d) 成年後見制度 F. 介護保険制度 a) 法体系 b) 市町村の役割 c) 居宅サービス事業者 d) 居宅介護支援事業者とケアマネジメント 4. 保健医療福祉の計画と評価 A. 地方公共団体の保健医療福祉計画 b) 老人保健福祉計画 d) 介護保険事業計画 e) 地域福祉計画と地域福祉活動計画 f) 障害者計画
2	社会保障・社会福祉の財政	1 社会保障・社会福祉の財政 2 日本における社会保障・社会福祉の財政 3 社会保障・社会福祉関係費の推移 4 社会保障・社会福祉関係費の負担		
3	所得保障一時年金制度	1 年金制度とその発展過程 2 年金制度の改革 3 年金制度の仕組みと給付		
4	介護保障	1 介護保険制定の経過とねらい 2 介護保険制度の仕組み 3 介護保険サービス事業の種類 4 介護保障の課題		
5	貧困と社会福祉	1 生活保護の制度 2 今日の低所得者層と生活保護 3 生活福祉資金貸付制度		
6	児童と母子の社会福祉	1 児童の権利保障 2 児童福祉の歴史と制度 3 母子及び寡婦の福祉		
7 8 9	障害者（児）の社会福祉	1 障害者福祉の理念と実態 2 身体障害者（児）の福祉対策 3 精神障害者の福祉 4 知的障害者の福祉 5 雇用保障と共同作業所の実施		
10 11	高齢者の社会福祉	1 高齢者福祉の理念と変遷 2 高齢者世帯の生活実態 3 老人福祉施設		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12 13	社会福祉施設の現状と課題	4 在宅福祉対策 1 社会福祉施設とその歴史 2 社会福祉施設の種類と推移 3 社会福祉施設の運営基盤 4 社会福祉施設の最低基準 5 社会福祉施設の社会化 6 社会福祉施設における処遇	B. 生活保護法と施策 a) 生活保護法の原則 b) 実施機関 c) 保護の実施 C. 障害者(児)への施策 a) 障害者基本法 b) 身体障害者福祉法 c) 知的障害者福祉法 d) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 D. 児童への施策 a) 児童憲章 b) 児童福祉法 c) 児童虐待防止に関する法律 E. 老人への施策 a) 老人福祉法 b) 老人保健法 F. その他の施策 a) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV 防止法) 4. 社会福祉行政 A. 保健福祉計画 a) ゴールドプラン 21 b) 新エンゼルプラン c) 障害者プラン d) 保健福祉計画 B. 社会福祉の民間活動 a) 民生委員, 児童委員 b) 社会福祉協議会 c) ボランティア活動 d) 特定非営利活動促進法 (NPO 法) C. 国, 地方公共団体の行政と組織およびマンパワー a) 福祉事務所 b) 児童相談所 c) 社会福祉施設 d) 在宅サービス機関 e) 介護支援専門員 (ケアマネージャー) f) 社会福祉士および介護福祉士 g) 精神保健福祉士 D. 老人保健福祉行政の展開 a) 入所措置権の市町村への委譲 b) 市町村および都道府県の老人福祉計画 c) 高齢者の生きがい対策 d) 介護予防	
14	地域福祉とコミュニティ・ケア	1 地域福祉とコミュニティ・ケアの理解 2 社会福祉協議会 3 民生委員の福祉活動 4 在宅福祉の「供給システム」		
15	試験			

教科書	「これからの保健医療福祉行政論」(日本看護協会出版会)
参考書	「新版 保健師業務要覧」(日本看護協会出版会)

授 業 科 目 名	地 域 保 健 行 政	単 位 認 定 者	大 野 絢 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	保健師の活動は、担当する地域の健康政策や施策の立案、健康問題解決のための具体的活動が求められる。活動は、各方面の関係者との調整、協力により進められる。これらの活動の基礎となる法律、制度、政策についての理解を深めることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	保健医療の行財政の基本的な知識を理解させ、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発や、保健医療のサービスの調整及び評価を行なうための基本的な能力を養う。また、地方公共団体行政の保健医療計画及びサービス実施計画に必要な知識を習得させる。
関 連 科 目	1 社会福祉・社会保障制度論 2 保健師教育科目のうち、公衆衛生学、健康管理論、社会福祉・地域サービス論、地域看護活動論Ⅱ
成 績 評 価 方 法	定期試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	保健医療福祉行政のめざすもの	1 公衆衛生の定義 2 保健医療行政のめざすものは何か	【必修問題】 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う 3. 保健医療制度の基本 A. 医療保険制度 B. 介護保険制度	【保健医療福祉行政論】 1. 保険医療福祉行政の理念としくみ A. 保健医療福祉の行政 B. 保健医療福祉の財政
2	わが国の保健医療福祉制度の変遷	1 公衆衛生の基盤形成 2 新たな課題と政策の発展		2. 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の返還 A. 公衆衛生政策Aの基盤形成 B. 新たな課題と政策の発展
3	保健医療福祉行政の財政の仕組み	1 国・都道府県・市区町村の行政の仕組みと役割		3. 地域保健医療福祉行政と保健師活動 D. 医療提供体制
4		2 地方公共団体の行政の単位と仕組み 3 保健医療福祉の財政		
5	同上	介護保険制度		4. 保健医療福祉の計画と評価 A. 地方公共団体の保健医療福祉計画 B. 地方自治体の計画策定 C. 計画の推進と管理・評価
6	地域保健行政と保健師活動	1 地域保健の体系 a地域保健活動と地方自治 b地域保健に関する公的機関 c保健所の役割と機能強化 d市町村保健センターの役割		2. 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の返還 C. 政策の充実と転換
7		2 地域単位の保健師活動と連携		4. 保健医療福祉の計画と評価 A. 地方公共団体の保健医療福祉計画 B. 地方自治体の計画策定 C. 計画の推進と管理・評価
8				
9	同上			
10	同上	3 健康危機管理		
11	同上	4 情報公開・個人情報保護と公務員医療従事者としての保健師		
12	保健医療福祉の計画と評価	1 地方公共団体の保健医療福祉計画		
13	同上	2 保健計画の策定プロセス 3 保健計画の推進と評価		
14	保健行政に関する法律	1 医療法		
15		2 保健師・助産師・看護師法 3 看護師等の人材確保の推進に関する法律		

教 科 書	1 「標準保健師講座 保健医療福祉行政論」(医学書院) 2 「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 3 「基本医療六法 平成20年度版」(中央法規) 4 「福祉小六法 2008」(中央法規)
参 考 書	1 「最新保健学講座6 保健医療福祉行政論」(メヂカルフレンド社) 2 「公衆衛生看護学大系の保健福祉行政論」(日本看護協会出版会)

授 業 科 目 名	健 康 管 理 論	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	21世紀において、さまざまな健康問題が地球規模で広がりを見せており、若い世代にとって必要な健康で文化的な生活とは何かを学ぶ。国家試験に役立つ基礎的知識を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	健康で文化的な生活のための公衆衛生、社会保障上必要なものは何かを理解する。保健師活動の理解。看護国家試験に役立つ、疾病の基礎理解を深める事の出来る様指導する。
関 連 科 目	地域社会学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、公衆衛生、疾病の成り立ち、スポーツ科学
成 績 評 価 方 法	試験と課題レポートの総合評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	健康とは	健康、栄養、食事について	主に成人看護学、老年看護学、精神看護学理解に役立つ、基礎的知識を講義し、広範囲の看護学の理解に役立つ授業内容に努める。	特に企業内の保健師活動の現状を講義し、国家試験の対応にも役立つ内容の講義を行う。
2	健康保険制度	医療制度と健康保険		
3	喫煙、肥満	日常生活に求められる健康とは		
4	スポーツと健康	外傷とリハビリテーション		
5	大学生と性	エイズ、予防、性感染症		
6	身体の健康(1)	突然死、循環器、呼吸器疾患		
7	身体の健康(2)	腹痛、食中毒		
8	身体の健康(3)	膠原病、腎疾患(人工透析)		
9	身体の健康(4)	生活習慣病		
10	精神の健康(1)	メンタルヘルス、ノイローゼ		
11	精神の健康(2)	大学生の不登校		
12	精神障害	総合失調症、うつ病		
13	精神健康増進	自閉症、思春期妄想症		
14	最近の話題(1)	メタボリックシンドローム		
15	最近の話題(2)	健康管理論まとめ		

教 科 書	「学生と健康」国立大学等保健管理施設協議会 編(南江堂)
参 考 書	「シンプル公衆衛生学」 鈴木庄亮 著(南江堂)

授 業 科 目 名	歯 科 保 健	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	歯科の基本的知識を修得させる。
学 習 到 達 目 標	歯科の基本的な事項を説明できる。
関 連 科 目	臨床系諸科目
成 績 評 価 方 法	試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	口腔の解剖生理	歯のはたらき、数、種類		
2	口腔の解剖生理	口腔緒組織の解剖生理		
3	歯式	各種の歯式		
4	歯の構造	歯の組織構造		
5	う蝕	う蝕の病因、病理、疫学		
6	う蝕	う蝕の診査、診断		
7	う蝕	う蝕の治療		
8	歯周組織	歯周組織の組織構造		
9	歯周疾患	歯周病の原因、病態、疫学		
10	歯周疾患	歯周病の診査、診断		
11	歯周疾患	歯周病の治療		
12	欠損補綴	欠損補綴の分類、ブリッジ		
13	欠損補綴	有床義歯		
14	欠損補綴	インプラント		
15	その他	矯正治療、顎関節症		

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	実習および講義
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得を目指す
学 習 到 達 目 標	1年次に履修した心理学，臨床心理学をベースに，実際に医療機関や福祉施設などで治療に従事する際に必要な，看護学の知識・技術以外の治療的対人コミュニケーションの知識や技術を習得することが目標である（1年次に履修した心理学，臨床心理学をきちんと理解していることが前提である）。
関 連 科 目	すべての科目と関連
成 績 評 価 方 法	期末レポート（30%），小レポート（20%），プレゼンテーション評価（20%），出席（30%）を総合して評価する。なお，第1回の講義時にプレゼンテーションのグループ分けを行うので，第1回の講義に出席していない学生の履修は認めない。また，ロールプレイ，グループワークなどの実習，およびパワーポイントによるプレゼンテーションを行うため，意欲的な取り組みが求められるので，留意すること。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	I. カウンセリングの理論	1. 保健医療領域における看護師，理学療法士の役割とカウンセリング	【基礎看護学】 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立し発展させるための技術 b) カウンセリング技術	
2	II. カウンセリングの基本技法の習得	1. カウンセリングの方法と基本技法（1）		
3		2. カウンセリングの方法と基本技法（2）【実習】		
4		3. カウンセリングの方法と基本技法（3）【実習】		
5	III. 保健医療に生かすカウンセリング技法の習得	1. 保健医療に生かすブリーフセラピー（1）【実習】		
6		2. 保健医療に生かすブリーフセラピー（2）【実習】		
7		3. 保健医療に生かすブリーフセラピー（3）【実習】		
8	IV. 発達段階とカウンセリング	1. 子どもとカウンセリング（1）－発達障害－		
9		2. 子どもとカウンセリング（2）－思春期青年期に多い精神疾患－		
10		3. 大人とカウンセリング（1）－労働者に多い精神疾患（ストレス疾患）－		
11		4. 大人とカウンセリング（2）－統合失調症と精神科リハビリテーション－		
12		5. 高齢者とカウンセリング－老化による心理的影響と死の臨床－		
13	V. チーム医療に活かす心理学	1. がん医療【学生によるプレゼンテーション】		
14		2. 心臓疾患【学生によるプレゼンテーション】		
		3. 糖尿病【学生によるプレゼンテーション】		
		4. 小児医療【学生によるプレゼンテーション】		
		5. アレルギー疾患【学生によるプレゼンテーション】		
15	6. 脳外傷・脳血管障害【学生によるプレゼンテーション】			
	7. 生活習慣病予防【学生によるプレゼンテーション】			
	8. 高齢者医療【学生によるプレゼンテーション】			
		小レポートの作成		

教 科 書	「<森・黒沢のワークショップで学ぶ>解決志向ブリーフセラピー」 森俊夫・黒沢幸子（ほんの森出版）2002年
参 考 書	「医療心理学の新展開」 鈴木伸一 編著（北大路書房）2008年 「独習 実践カウンセリング・ワークブック」 福山清蔵（日本精神・技術研究所）1999年 「24の臨床シーンでわかるコミュニケーションの上手な方法」 町田いづみ（照林社）2006年

授 業 科 目 名	社会福祉・地域サービス論	単 位 認 定 者	金 谷 春 代
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	福祉制度が存する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。
関 連 科 目	地域社会学 社会福祉・社会保障制度論
成 績 評 価 方 法	筆記試験に平常点を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	福祉の捉え方	福祉とは何か	【社会保障制度と生活者の健康】 目標 2. 社会保障制の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。 3. 社会福祉諸法の理念と施策 A. 社会福祉の理念と変換 4. 社会福祉行政 B. 社会福祉の民間活動 C. 国, 地方公共団体の行政と組織およびマンパワー	【保健福祉行政論】 目標 1. 目標 2. 目標 3. 3. 地域保健医療福祉行政と保健師活動 C. 社会保障・社会福祉の制度 F. 介護保険制度
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について		
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について		
4	地域福祉の内容と展開			
5	サービスの実際Ⅰ	福祉サービスの種類と内容について具体的なサービスについて理解する		
6	サービスの実際Ⅱ			
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて		
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。		
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する。		
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方		
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」		
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担。		
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは。		
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的		
15	試験			

教 科 書	
参 考 書	「介護保険時代の医療福祉総合ガイドライン」(医学書院) 「社会福祉六法」「国民の福祉の動向」

授業科目名	国際医療協力	単位認定者	辻村弘美
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、グループワークとその発表形式
科目の目的	国際協力の目的や意義を理解し、保健医療の視点から国際協力などのあり方を考えることを目的とする。
学習到達目標	1. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる 2. 保健医療協力の必要性とその対策が理解できる 3. 国際保健医療の現状及び課題が理解できる 4. 保健医療協力の現場で自分ができる国際協力活動とは何かを考えることができる
関連科目	関連する教養科目—国際関係論、国際医療協力英語 関連する専門基礎科目—国際医療協力、公衆衛生学、疫学・保健統計
成績評価方法	試験とレポートに平常点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	授業ガイダンス及び国際医療協力総論1	1. 国際協力の歴史とその変遷 被援助国時代から援助供与国になるまで 2. 日本の国際協力の流れ 二国間援助(無償資金協力, 技術協力, 有償資金協力)と多国間援助 3. 国際協力に関わる機関、GO、NGO、その他の援助機関の役割(JICA、厚生労働省、外務省、WHO、UNICEF、NGOなどについて) 4. 最近の国際協力の動向について	基礎看護学 目標3. 保健・医療・福祉のなかで看護の果たす役割についての理解を問う。 G: 国際協力 a) 国際交流 b) 国際機関への協力	保健医療福祉行政論 C: 世界の公衆衛生と理念 a) 交際連合とWHOの保健政策 b) 国際協力とODA B: 地域保健体系 ボランティア NPO
2	国際医療協力総論2	1. なぜ国際協力が必要なのか ・世界のさまざまな格差 ・わが国が受けた支援 ・ODA大綱の基本理念と原則 2. 保健医療の現状への対策 ・プライマリ・ヘルスケアの基本原則と意義 ・新興感染症対策における世界的な取り組み 3. 看護の国際協力について		
3	国際保健医療の現状及び課題1	1. 先進国と開発途上国について 2. 貧困とは 3. 栄養問題 4. 環境問題		
4	国際保健医療の現状及び課題2	1. 感染症コントロール ・ポリオ、麻疹根絶活動 ・マラリア ・下痢症対策 ・結核 2. HIV/AIDS 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ		
5	国際保健医療の実際1	(外部講師による講義予定) 1. 青年海外協力隊活動 2. 国際協力 3. 環境保全への取り組み など		
6	国際保健医療の実際2	1. JICA専門家、NGOワーカー 2. 国際緊急援助活動		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7	まとめ	1. 国際保健医療関係の仕事や教育機関 2. 保健医療協力の現場で自分ができる国際協力活動とは何かを考えて意見をまとめる		
8	試験			

教科書	「国際保健医療協力入門-理論から実践へ」 小早川 隆敏 (国際協力出版会)
参考書	「バッシュ国際保健学講座」 ポールバッシュ (じほう) 「国際保健医療学」 日本国際保健医療学会 (杏林書院) 「国際協力論を学ぶ人のために」 内海 成治 (世界思想社) 「いのち・開発・NGO-子ども健康が地球社会を変える」 デビットワーナー (新評論) 「国際保健医療のおしごと」 中村安秀編 (南山堂) 「私のしごと」 緒方貞子 (草思社) など

授 業 科 目 名	国 際 医 療 協 力 演 習	単 位 認 定 者	辻 村 弘 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	演習、グループワークとその発表形式
科 目 の 目 的	保健医療の現状や国際協力の実際を学び、演習、グループワークを通して国際協力における今後の課題や医療職者としての役割について学びを深めることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 開発途上国の保健医療の現状が理解できる。 2. 国際協力の実際について見識を深めることができる。 3. 先進国と開発途上国のさまざまな格差について理解できる。 4. 異文化に対する疑似体験などを通して、異文化理解の意義やその必要性が理解できる。
関 連 科 目	関連する教養科目—国際関係論、国際医療協力英語 関連する専門基礎科目—国際医療協力、公衆衛生学、疫学・保健統計
成 績 評 価 方 法	課題に対する発表とレポートに平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	授業ガイダンス及びアイスブレイキング	コミュニケーションを深めるきっかけとしてのアイスブレイキングを紹介する。参加者同士の関係を良好にして主体的に学習に参加できる雰囲気を作ることを狙いとする。		
2	国際保健医療活動	青年海外協力隊看護師隊員の体験談から学ぶ。		
3	南北問題について	貿易ゲームを行う。 商品生産から国際貿易までをシミュレーションし、南北問題（貧富の差）を体感し、その解決方法を考える。		
4	先進国と開発途上国のさまざまな格差	先進国と開発途上国のさまざまな格差について事例を紹介する。キーワード：貧困、環境、健康、経済		
5	国際保健医療の実際	(外部講師による講義と演習予定)		
6	ケーススタディ	開発途上国の保健医療に関係する事例を提示して、解決可能な問題を考え、その具体的な方法についてグループワークを行う。最後にまとめの発表を行う。		
7	グループワーク 1			
8	グループワーク 2			
9	発表会			
10	異文化理解 1	異文化体験シュミレーションゲーム (BaFaBaFa) を行う。2つの文化を設定し、擬似的に異文化に遭遇する状況を作り出す事で、自分と異なる文化への感じ方、行動を振り返り、異文化間の交流のあり方を考える。最後に振り返りとまとめを行う。		
11	異文化理解 2			
12	異文化理解 2	フォトランゲージを行う。 世界各地の家族や生活の場面などの写真、資料を用いて 異文化について考える。見えない世界を絵にかく。		
13	異文化理解 2			
14	ディベート	国際保健医療に関する最近の問題について討論する。		
15	まとめ			

教 科 書	使用せず
参 考 書	本演習の中で適宜紹介する

授 業 科 目 名	看 護 過 程 論	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および演習
科 目 の 目 的	個人・家族・集団に対してより良い看護ケアを提供するために、必要な看護過程を展開できる基礎的能力を養う。
学 習 到 達 目 標	1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義を述べることができる。 2. 情報の分類を行い、得られた事実に関する判断ができる。 3. 患者目標と達成の時期の設定の仕方を述べるができる。 4. 看護診断過程を理解し、実際に行うことができる。 5. ケアプラン・評価の仕方が理解できる。
関 連 科 目	解剖学、生理学、薬理学、看護ケア方法論、看護ケア方法論演習、看護アセスメント演習
成 績 評 価 方 法	レポート、グループワークの成果、個人ワークの成果、筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4	ガイダンス 看護過程とは	看護過程を学習する意義と看護過程の構成要素、用語等について学ぶ。 問題解決法、クリティカルシンキング、意思決定など看護過程を展開するために基本となる考え方について学ぶ。 看護過程の概念の変遷について学ぶ。	必修問題 IV看護技術の基礎的知識を問う 1. 基本技術 C看護過程 a)情報収集 b)アセスメント c)計画立案 d)実施 e)評価	
5 6	観察 データ	観察の技術、方法、用語と観察の優先順位、長所と欠点について学ぶ。 主観的データ・客観的データについて学ぶ。 データの収集方法について学ぶ。	基礎看護学 目標2:基本的看護技術についての理解を問う 1 共通基本技術 F 観察技術 a 身体面のアセスメント(体温、脈拍、血圧、意識、身体計測) b 精神面のアセスメント(不安、恐怖) G 記録・報告 a 記録・報告の目的 b 記録の種類 (POS, フォーカスチャート)を含む c 記録・報告の条件(情報開示を含む)	
7 8	アセスメント	情報の分析と解釈について学ぶ。 一次アセスメント・フォーカスアセスメントについて学ぶ。 具体例を通して情報の判断の仕方を学ぶ。		
9 10	看護診断	看護診断の構成要素について学ぶ。 看護診断過程について学ぶ。 看護診断の決定方法について学ぶ		
11 12	患者目標 計画立案	患者目標の設定の仕方について学ぶ。 計画立案について学ぶ。	基礎看護学 目標1:看護の基本となる概念についての理解を問う 2 看護の展開 A 対象者の全体像の把握 a)情報の収集と分析 b)問題の明確化	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13 14	実施・評価	実施、評価について学ぶ。	B 目標設定 a) 優先順位の決定 b) 患者と目標の共有 c) 目標とその達成時期の設定 C 計画 a) 行動計画の立案	
15 16 17 18 19 20 21 22	事例展開	ペーパーシミュレーションを通して看護過程の実際を学習する。 (グループワーク)	D 期待される結果の明確化 E 実施 a) 手段の選択、b) 対象者への説明と了解、c) 看護の実施と対象者の反応の確認 F 評価 a) 目標達成の評価、b) 看護過程展開の評価、c) 再計画	
23 24	発表	ペーパーシミュレーションの事例検討についてグループ毎に発表し、提示された事例に対しよりよい看護は何かに関して考察する。		
25 26 27 28	事例展開	ペーパーシミュレーションを通して看護過程の実際を学習する。 (個人ワーク)		
29 30	まとめ	提示された事例のまとめ		

教科書	「看護過程と看護診断」江川隆子（ヌーヴェルヒロカワ） 「看護診断ハンドブック」新道幸恵 監修（医学書院） 「看護データブック」神田清子 編集（医学書院）
参考書	「カルペニート 看護過程・看護診断入門」リンダ J. カルペニート、藤崎郁 訳（医学書院） 「これなら使える看護診断」江川隆子 編集（医学書院） 「NC ブックス 関連図の書き方をマスターしよう」吉澤理 編集（医学芸術社）

授業科目名	看護ケア方法論演習	単位認定者	真 砂 涼 子
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	看護ケア方法論における学習を踏まえ、対象のニーズに応じた日常生活援助技術のために必要な看護ケアの基本的技術を習得する。
学 習 到 達 目 標	学内での演習により、生活環境整備、バイタルサイン、体位変換・移動、身体の清潔と衣生活、栄養と食事、感染予防・滅菌操作、排泄、活動と運動、吸引・吸入について基本的技術を習得する。
関 連 科 目	関連する教養科目—心理学 生活学 環境論 関連する専門基礎科目—主に看護ケア方法論、看護学入門、看護学概論、解剖学、生理学、生化学、栄養学、病態栄養学、カウンセリング この科目が基盤となる専門科目—看護学に関連する科目全て
成 績 評 価 方 法	出席状況、筆記試験及び実技試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1 2	講義・演習がイタンス 手洗い法	講義演習スケジュールおよび基礎看護学実習室の使用方法について、手洗い方法について	必修:IV3 安全・安楽を守る技術 A療養環境 a)ベッド b)病室環境 IV看護技術の基礎的知識を問う。C院内感染防止対策 b)手洗いの方法	
3 4 5	生活環境について	健康的な生活環境を整えるための援助方法を学ぶ。 ボディメカニクスの原理を体現する。 ベッドメイキングの方法を習得する。 就床患者のシーツ交換の方法を習得する。	一般:目標2 基本的日常生活援助技術 A環境を整える技術 a)環境の整備(温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、プライバシー保護) b)病末の整備	
6 7 8	バイタルサイン 電法	生命の徴候(バイタルサイン)を正確に測定でき、得られた値を基にして、対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法(電法)を理解する。	必須:基本技術 Bバイタルサイン a)観察と測定 必須:病態と看護 A症状と看護 a)発熱 必須:診療に伴う看護技術 H救急救命処置 e)体温の保持 E電法 a)電法の種類と適応 b)温電法の方法 c)冷電法の方法	
9 10 11	活動と運動、休息と睡眠	様々な状況の対象者の体位変換を習得する。 ベッドから車椅子・移送車への移動方法について習得する。	必修:2. 日常生活援助技術 D活動・休息 a)睡眠 b)移動・移送 c)廃用性症候群の予防 d)褥瘡の予防 Eボディメカニクス a)体立 b)体立変換の基本 一般:1 共通基本技術 E効果的で安楽な動きをつくり出す技術 a)ボディメカニクス b)安楽な姿勢 2基本的日常生活援助技術 F活動・運動の援助技術 a)活動・運動の能力のアセスメントと援助方法 b)体立変換 c)床上移動 d)車椅子への移動・移送 e)輸送車への移動・移送	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12 13	食生活と栄養	食事の援助方法を習得する。 健康状態に応じた栄養法（経管栄養法を含む）を習得する。	A食事 a) 食事の環境 b) 食事介助の方法 c) 誤嚥の予防 一般：2基本的日常生活援助技術 B食生活の援助技術 a) 健康な食生活 b) 栄養状態の評価、c) 摂食行動のアセスメントと援助方法、d) 病人の食事、e) 経管栄養 f) 経腸栄養法	
14	身体の清潔保持	口腔ケアの援助方法を習得する。	必修：IV2 日常生活援助技術 C清潔 c) 口腔ケア	
15 16 17 18 19 20	身体の清潔保持と衣生活について	全身清拭、寝衣交換の方法を習得する。 洗髪の方法を習得する。 足浴、手浴の方法を習得する。	必修：IV2 日常生活援助技術 C清潔 a) 入浴の介助 b) 清拭 d) 洗髪 e) 部分浴 f) 陰部洗浄 g) 整容 h) 寝衣交換 一般：目標2 2基本的日常生活援助技術 D身体の清潔の援助技術 a) 清潔行動のアセスメントと援助方法 b) 身体各部の清潔の援助方法 一般：E衣生活の援助技術 a) 衣生活を調整する能力のアセスメントと援助方法 b) 病衣の選択 c) 寝衣の交換	
21 22 23 24	感染予防	感染予防の意義を理解する。 基本的な滅菌操作（滅菌手袋の扱い、滅菌物の扱い）ができる。 創部の処置の基本を理解する。	IV看護技術の基礎的知識を問う。 C院内感染防止対策 a) スタンダードプリコーション<標準予防策> b) 手洗いの方法 c) 無菌操作 d) 滅菌と消毒の方法 e) 針刺し・切創の防止 f) 感染性廃棄物の取り扱い 目標2. 基本的看護技術についての理解を問う。1. 共通基本技術 C安全を守るための技術 a) 感染コントロール（無菌操作、手洗い、感染症の取り扱い、針刺し事故防止）c) 褥瘡の予防、処置 3. 診療に伴う技術 B治療・処置 g) 包帯法と創傷の管理	
25 26	排泄援助について	床上排泄（便尿器の与え方）の方法を習得する。 浣腸法の方法を習得する。 導尿法（一時的導尿法、持続的導尿法）について習得する。	必修：IV2 日常生活援助技術 B排泄 a) 床上排泄 b) 導尿 c) 浣腸 d) 摘便 一般：目標2 C排泄の援助技術 a) 排泄行動のアセスメントと援助方法 b) 排泄物の観察 c) 自然な排泄を促す援助方法 d) 床上排泄の援助方法 e) 浣腸 f) 導尿	
27 28	実技試験	膀胱留置カテーテル法についての実技テストを実施する。		
29 30	吸引・吸入	吸引法についての方法を習得する。 酸素吸入、ネブライザー、体位ドレナージ法についての方法を習得する。	3. 診療に伴う技術 B治療・処置 e) 吸引（口腔、鼻腔、気管、胸腔） f) 酸素吸入 D生命の危機にかかわる技術 b) 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法	

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他（メディカ出版） 「ヘルスアセスメント」川村佐和子他（メディカ出版） 「写真でわかる基礎看護技術1」村上美好（インターメディカ） 「写真でわかる基礎看護技術2」村上美好（インターメディカ）
参考書	

授業科目名	看護アセスメント演習	単位認定者	城 生 弘 美
対象学年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	看護ケア方法論演習を踏まえ、対象者の情報を正確に把握するフィジカルアセスメント技術と診療補助の技術に関する基本的な看護援助技術を習得する。
学 習 到 達 目 標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 診療補助のための基本的な援助技術について、その根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。
関 連 科 目	関連する教養科目：心理学、老年心理学、生命科学、生命倫理、生活学、環境論 関連する専門基礎科目：主に解剖学、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、看護学入門、栄養学、病態栄養学 この科目が基盤となる専門科目：看護学に関連する専門科目すべて
成 績 評 価 方 法	出席状況 筆記試験および実技試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	フィジカルアセスメントとは	フィジカルアセスメントの意義と看護師の役割について学ぶ。	必修問題 IV. 看護技術の基礎的知識を問う 1. 基本技術 c 看護過程 b) アセスメント 目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う 2 看護の展開 A 対象者の全体像の把握 a) 情報の収集と分析 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う F 観察技術 a) 身体面のアセスメント (体温、脈拍、呼吸、意識、身体計測) b) 精神面のアセスメント (不安、恐怖) 3. 診療に伴う生命の危機にかかわる技術 a) 生命徴候のアセスメントと援助方法 b) 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 c) 循環管理 d) 保温 e) 覆法 必修問題 4 診療に伴う看護技術 B 薬物療法 a) 与薬方法 b) 吸収・分布・代謝・排泄の機序 C 輸液管理 a) 刺入部位の観察 b) 滴下速度 c) 輸液ポンプの取り扱い d) 安全・安楽 目標 2: 基本的看護技術についての理解を問う。 3 診療に伴う技術 C. 薬剤についての知識と取り扱い a) 薬剤の作用・投与量・投与方法 (薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む) b) 薬剤の取り扱い	
2	呼吸器系のフィジカルアセスメントについて	呼吸器系のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる。 呼吸機能を測定する器具 (スパイロメーター、酸素飽和度) について理解し、扱い方を習得する。		
4	循環器系のフィジカルアセスメントについて	循環器系のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる。 心電図の原理を理解する。		
6	消化器系のフィジカルアセスメントについて	消化器系 (腹部) のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる。		
8	筋肉・神経系のフィジカルアセスメントについて	筋肉・神経系のフィジカルアセスメントの方法を習得する。 身長・体重・胸囲・腹囲などの身体機能の計測の方法について学ぶ。		
10	頭部・顔面のフィジカルアセスメントについて	頭部・顔面のフィジカルアセスメントの方法を習得する。		
12	検査・処置に伴う技術について	検査・処置時の看護師の役割について理解し、援助方法について習得する。 検体検査の取り扱いについて 生体検査時の対象者への対応について ・ 採血 ・ 採尿 ・ その他の検査 (呼吸・循環器機能検査)		
15	実技テスト	フィジカルアセスメント		
16				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
17 18 19 20	診療に伴う技術について	薬剤の種類と取り扱いについて基本的な知識について理解する。 薬剤投与の方法について理解する。 薬物管理における看護師の役割を学ぶ 薬剤の与薬方法について理解し、基本的な技術について習得する。 ・ 与薬方法（経口・注射・塗布・点眼・点鼻・吸入・経直腸） ・ 注射方法（筋肉内注射・皮下注射・皮内注射） ・ 輸液管理方法（静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ）	c) 与薬法（経口、注射、（静脈注射を含む）、塗布、点眼、点鼻、吸入、経直腸） d) 副作用とその徴候、禁忌 3. 診療に伴う技術 A. 診察・検査 a) 診察・検査時の看護師の役割 b) 対象者の心理 c) 検査時の看護（尿・便・喀痰・血液の採取および検査、腰椎穿刺検査、X線検査、CT検査、内視鏡検査、心電図検査、超音波検査、核医学検査、基礎代謝検査、呼吸機能検査） B 治療・処置 a) 治療・処置時の看護師の役割と責任 b) 治療・処置時の対象者の理解 c) 穿刺（胸腔、腹腔、骨髄） d) 洗浄（胃、膀胱） g) 包帯法と創傷の管理	
21 22 23 24	検査に伴う技術テスト	実技テスト：静脈採血		
25 26	診療に伴う技術	薬剤の与薬方法について理解し、基本的な技術について習得する。 ・ 静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ	必修問題 4. 診察に伴う看護技術 D. 採血 a) 使用物品 b) 穿刺部位 c) 手技	
27 28	実技テスト	実技テスト：皮下注射法		
29 30	まとめ	提示された課題に基づき、まとめを行う。		

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他（メディカ出版） 「ヘルスアセスメント」川村佐和子他（メディカ出版） [写真でわかる臨床看護技術] 村上美好（インターメディカ）
参考書	「写真でわかる基礎看護技術 1」村上美好（インターメディカ） 「写真でわかる基礎看護技術 2」村上美好（インターメディカ）

授 業 科 目 名	看 護 研 究 論	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	看護研究とは何か、看護研究の意義と方法を学ぶ。実践の中から研究的取り組みが必要な研究領域の決定、文献検索、概念枠組み、研究課題と目的の設定、さらに研究課題・目的を究明するための研究デザインと研究方法の決定という一連の過程を学ぶ。 また、研究における倫理的配慮、データの収集・集計・分析について学習する。さらに、これらの過程を詳細な研究計画書にまとめ、論文作成について理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1. 看護研究の意義と目的が理解できる。 2. 看護研究の方法（デザイン）について理解できる。 3. 文献検索方法が理解でき、自分で必要な文献を収集し、文献カードを作成することができる。 4. 研究における倫理的な問題について理解できる。 5. 指導教員のもと卒業研究に向けて自分の研究テーマを探すことができる。
関 連 科 目	既習の科目全て
成 績 評 価 方 法	出席状況、レポートを総合して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3	看護研究とは	看護における研究の役割について理解する。 言葉と事象について理解する。 看護研究の目的について理解する		
4 5 6 7 8 9	看護研究のプロセス	研究課題の見つけ方・絞り方について理解する。 研究課題と研究の考え方の枠組みの明確化について知る。 研究方法の選定について理解する。 研究データの収集について理解する。 研究データの分析について理解する。 研究成果の発表について理解する。		
10 11 12 13	文献検索について	文献検索の意義を理解し、文献検索を実施する。 得られた研究論文を読み、文献カードを作成する。		
14 15	看護研究方法（デザイン）について	研究方法の種類を理解し、文献を読むことができる。		
16 - 30	看護研究演習	関心のある領域別に分かれる。 指導教員と研究テーマを検討し、先行研究を読む（文献カードを作成する）。 研究計画書を作成し、4年次の卒業研究につなげる。		

教 科 書	「看護研究」川村佐和子編集（メディカ出版） この他、必要なものは随時提示する。
参 考 書	「看護における研究」南裕子編集（日本看護協会出版会）

授 業 科 目 名	看 護 と 医 療 人 類 学	単 位 認 定 者	鹿 村 眞 理 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義とグループワーク
科 目 の 目 的	医療人類学は、病気・健康をめぐる人間の行為と概念を一つのまとまった体系とみなして取り扱う学問領域である。看護は患者個人をその対象とする。対象である患者の行動を理解するためには、その背景としての文化的規範に関心を持つ必要がある。現代医療において傍らに存在し患者をケアしようとする看護者にとって、患者を取り巻く社会的文化的文脈の中で医学が定義する「疾病」とは別の「病い」を捉え、理解していくことは重要である。この科目は、このような医療人類学的視点に立ち、日常的看護行為の文化的・社会的背景、「病い」の意味などについて事例を通して学習し、看護に対する考えを深めたり、看護実践に役立てることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 健康や病むことなどについて、人間が持っている観念の多様性を理解する 2. 事例を通して、患者を取り巻く社会的・文化的背景を理解し、看護に対する考え方を深めることができる。
関 連 科 目	関連し合う教養科目－医療民俗学 この科目が基盤となる専門基礎科目－看護学入門 この科目が基盤となる専門科目－看護学概論
成 績 評 価 方 法	出席状況とレポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	医療人類学とは	医療人類学の立場、医療人類学の目的		
2	看護における文化的視点	病い、妊娠、死等におけるの日本の伝統的な捉え方と看護の役割		
3	民族看護論	レイニンガー看護論：文化ケアの多様性と普遍性		
4	事例検討	グループで事例検討		
5	事例検討	グループで事例検討		
6	事例検討	グループで事例検討		
7	発表	発表		
8	まとめ	講評・まとめ		

教 科 書	
参 考 書	「いのちの文化人類学」波平恵美子（新潮選書） 「系統看護学講座・基礎9・文化人類学」波平恵美子（医学書院） 「レイニンガー看護論」マデリン M. レイニンガー（医学書院）

授 業 科 目 名	成 人 ・ 老 年 看 護 学 概 論	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子 ・ 伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習
科 目 の 目 的	ライフサイクルにおける成人期、老年期の特徴を理解し、成人期、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1 ライフサイクルにおける成人期、老年期の特性を理解する。 2 成人期、老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3 成人期、老年期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4 成人期、老年期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。
関 連 科 目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目
成 績 評 価 方 法	レポート 筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	成人看護学の概要	(牛込三和子)	目標1：成人の生活と健康問題について理解する 1 成人の特徴 2 成人に特有な健康問題の特徴 目標2：成人を看護するときの基本的なアプローチについて理解する 1 成人の特性や能力に応じたアプローチ 目標3：成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解する 1 健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護 3 障害への適応と社会復帰への看護 4 慢性的な経過をたどる健康障害への看護 5 終末期の看護	
2	成人看護の対象	ライフサイクルと成人期、成人期の看護問題とその把握		
3	成人各期の特徴と保健問題1	青年期の特徴と保健問題、		
4	成人各期の特徴と保健問題2	壮年期の問題と保健問題、向老期の問題と保健問題		
5	成人保健1	成人保健の動向と対策		
6	成人保健2	生活習慣病の予防1		
7	成人保健3	生活習慣病の予防2		
8	成人保健4	成人保健と性、成人保健と労働		
9	成人看護の方法1	病・障害と生活、家族		
10	成人看護の方法2	慢性疾患患者の看護方法1 生活習慣病		
11	成人看護の方法3	慢性疾患患者の看護方法2 難病		
12	成人看護の方法4	リハビリテーションアプローチを必要とする患者の看護		
13	成人看護の方法5	がん患者の看護1 がんの動向、がん治療と看護		
14	成人看護の方法6	がん患者の看護2 終末期医療とがん患者の看護		
15	まとめ			
1	ライフサイクルの中の老年期	(伊藤まゆみ) ライフサイクルにおける老年期、人口学的指標からの老年期、健康指標からの老年期、生活の視点からの老年期	目標1 1. 老年期の理解 2. 老年期を生きる人々の特徴 3. 加齢に伴う変化 4. 老年期を生きる人々の健康 5. 高齢者をとりまく社会	
2	加齢とからだ・こころ・生活①②	老年期の発達と成熟、高齢者の多様性 加齢に伴う変化の特徴、身体的変化、精神的変化、社会的変化		
3				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
4	高齢者のライフヒストリー①②	実際のライフヒストリー・インタビューを通しての高齢者の理解	目標2 1. 老年看護学の基本的考え方 2. 老年看護の基礎的技術 3. 高齢者の健康を支える看護 目標3 1. 介護保険と高齢者看護 2. 高齢者の保健医療福祉施設における看護 3. 在宅高齢者の看護 4. 高齢者を介護する家族への看護	
6	老化疑似体験	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解		
7	高齢者の健康と生活①	健康増進のための食事		
8	高齢者の健康と生活②	健康増進のための睡眠、活動と休息		
9	高齢者の健康と生活③	健康増進のための清潔、排泄		
10	高齢者の健康と生活④	生きがいとメンタルヘルス		
11	高齢者の健康を守る社会システム	高齢者と家族の保健・医療・福祉システム		
12	老年看護活動の場と看護の役割	高齢者の健康、障害、病期の特性に応じた看護活動の場、看護のもつ役割と機能		
13	高齢者と家族	老年看護の対象としての家族の理解と家族支援		
14	高齢者の人権と倫理的課題	高齢者の差別、虐待、身体拘束の問題と人権を守る取り組み		
15	まとめ			

教科書	「新体系看護学 14 成人看護学概論・成人保健 老年看護学概論」野口美和子編集（メジカルフレンド社） 「新体系看護学 26 老年看護学概論・老年保健」鎌田ケイ子・川原礼子編集（メジカルフレンド社）
参考書	「国民衛生の動向 厚生指針 53(9) 2006」（厚生統計協会）ほか、授業で紹介する 「私は三年間老人だった」パット・ムーア、木村治美訳（朝日出版社）

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 I	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2 疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、神経系疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。
関 連 科 目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	栗田昌裕 概論 1 概論 2 消化器疾患 1 消化器疾患 2 消化器疾患 3 呼吸器疾患 1 呼吸器疾患 2 呼吸器疾患 3 循環器疾患 1 循環器疾患 2 循環器疾患 3 神経系疾患 1 神経系疾患 2 神経系疾患 3 まとめ		疾病の成り立ちと回復の促進 目場 3 回復にむけて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特定について理解を問う。 1 中枢神経機能の障害 A 脳機能の障害 2 生命維持機能の障害 A 生命の危機 B 呼吸機能の障害 C 循環機能の障害 D 造血機能に関わる諸機能の障害 3 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害 A 食の障害 B 消化管の機能障害 C 肝臓・胆のう・膵臓の機能障害	
16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	牛込三和子 臨床看護総論 1 臨床看護総論 2 臨床看護総論 3 消化器疾患患者の看護 1 同 2 同 3 まとめ 1 呼吸器疾患患者の看護 1 同 2 同 3 同 4 循環器疾患患者の看護 1 同 2 同 3 まとめ 2	病期と看護（急性期、回復期、慢性期） 観察とアセスメント 検査・治療と看護 観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、主な疾患と看護 1 主な疾患と看護 2 観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、主な疾患と看護 1 主な疾患と看護 2 慢性呼吸不全 主な疾患と看護 3 気管支喘息 観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、 主な疾患と看護 呼吸器疾患と看護、循環器疾患と看護	成人看護学 目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う 1 呼吸機能障害をもつ患者の看護 2 循環機能障害をもつ患者の看護 3 栄養摂取・代謝障害をもつ患者の看護	

教 科 書	「系統看護学講座 成人看護学【2】－【15】」（医学書院） これらは成人看護学 2 まで使用する。
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅱ（1－15回）	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 （ 6 0 コ マ ）	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ
学 習 到 達 目 標	血液造血器疾患、神経系疾患、膠原病、糖尿病、腎泌尿器疾患、運動器疾患、感覚器疾患をもつ人々の看護について基礎知識を習得し、看護方法を理解できる。
関 連 科 目	ここまでに履修したすべての専門科目。とくに、成人老年看護学概論、成人看護学1
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	牛込三和子 神経系疾患患者の看護1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護、	目標4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 3. 栄養摂取・代謝疾患をもつ成人への看護 H. 糖代謝障害の観察とアセスメント I. 糖代謝障害のおもな看護 4. 内部環境調節機能障害をもつ成人への看護 A. 内分泌機能の観察とアセスメント B. 内分泌機能障害の看護 C. 体液調節機能の観察とアセスメント D. 体液不均衡の看護 E. 体温調節機能の観察とアセスメント F. 体温調節機能障害への看護 5. 生体防御機能障害をもつ成人への看護 A. 免疫機能の観察とアセスメント B. 免疫機能低下の看護 C. 感染症の観察とアセスメント D. 感染症の看護 6. 感覚機能障害をもつ成人への看護 A. 観察とアセスメント B. おもな看護 8. 運動機能障害をもつ成人の看護 A. 観察とアセスメント B. おもな看護 9. 排泄機能障害をもつ成人への看護 A. 排尿機能障害の観察とアセスメント B. 排尿機能障害へのおもな看護 .	
2	神経系疾患患者の看護2	4. 主な疾患患者の看護 脳血管疾患		
3	神経系疾患患者の看護3	5. 主な疾患患者の看護 神経系難病		
4	膠原病患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状に対する看護、4. 主な疾患患者の看護		
5	萩原英子 血液・造血器疾患患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状に対する看護、 4. 主な疾患患者の看護		
6	鈴木珠水 糖尿病患者の看護1	1. 観察とアセスメント		
7	糖尿病患者の看護2	2. 主な検査、治療と看護、3. 症状・障害と看護		
8	糖尿病患者の看護3	4. 自己管理支援の看護（患者教育）		
9	腎泌尿器系疾患患者の看護1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状に対する看護、		
10	腎泌尿器系疾患患者の看護2	4. 慢性腎不全患者の看護 血液透析 CAPD		
11	北林 司 運動器疾患患者の看護1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状・障害に対する看護、		
12	運動器疾患患者の看護2	4. 主な疾患患者の看護		
13	感覚器疾患患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状・障害に対する看護、4. 主な疾患患者の看護		
14	牛込三和子 がん患者の看護	1. 治療と看護 2. 終末期にある患者の看護		
15	まとめ			

教 科 書	「系統看護学講座 成人看護学【2】－【15】」（医学書院）
参 考 書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅱ（16－30回）	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 （ 6 0 コ マ ）	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	手術療法および手術室における看護師の役割を理解するとともに、手術を受ける患者の心理、術後の身体反応、想定される看護問題および共同問題、看護活動に関する理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1. 手術療法を受ける患者の心理が理解できる。 2. 手術療法と手術室看護師の役割が理解できる。 3. 麻酔の目的、種類、方法が理解できる。 4. 術後の身体反応と回復過程が理解できる。 5. 周手術期における一般的な看護問題が理解できる。 6. 周手術期における一般的な共同問題（術後合併症）が理解できる。
関 連 科 目	解剖学、生理学、疾病の成り立ちと回復の促進、薬理学、成人看護学概論、成人看護学Ⅰ
成 績 評 価 方 法	筆記試験、出席状況などから総合的に評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
16	北林 司 周手術期看護総論	手術患者の周術期プロセスと看護	目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 2. 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護 B. 手術療法時の看護 C. 化学療法・放射線療法時の看護 目標 4. 機能障害をもつ成人への看護 1. 呼吸機能障害をもつ成人への看護 2. 循環機能障害をもつ成人への看護 3. 栄養・代謝機能障害をもつ成人への看護 6. 感覚機能障害をもつ成人への看護 7. 認知機能・コミュニケーション障害をもつ成人への看護	
17	術前看護 1	手術に用いられる器具、衛生材料、縫合材料 手術室看護師の役割		
18	術前看護 2	麻酔の目的と種類、方法		
19	術前看護 3	術前患者の心理と看護		
20	術中看護 1	術前患者の身体的アセスメントの必要性和術前オリエンテーション		
21	術中看護 2	術前経過にそった看護援助		
22	術後看護 1	手術侵襲と生体反応の理解と反応の段階に応じた看護		
23	術後看護 2	術後合併症と関連させた術後の系統的な観察と看護		
24	術後看護 3	術後痛の特徴、影響要因の理解と看護		
25	術後看護 4	術後回復を促進するための看護（早期体動促進・創傷ケア）		
26	周手術期各論 1	胃切除術を受ける患者の看護（事例学習）		
27	周手術期各論 2	大腿骨頸部骨接合術を受ける患者の看護（事例学習）		
28	周手術期各論 3	肺切除術を受ける患者の看護（事例学習）		
29	周手術期各論 4	腹会陰式直腸切断術を受ける患者の看護（事例学習）		
30	まとめ			

教 科 書	「周手術期看護論」 雄西智恵美・秋元典子監修（ヌーベルヒロカワ）
参 考 書	

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅱ（31－45回）	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 （ 6 0 コ マ ）	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	事例を用いた看護過程展開演習・看護技術演習
科 目 の 目 的	1. 2年次に学習した看護過程の知識に基づき、健康問題を有する成人の事例を用いて、自身の看護過程展開能力を強化する。 2. 実習に必要な基礎的な看護技術を強化する。
学 習 到 達 目 標	1. 与えられた情報についてアセスメントできる。 2. 介入計画を具体的に提案することができる。 3. 創部処置、ストマケアの方法を理解し実践できる。 4. 呼吸管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 5. 循環管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 6. 栄養管理の方法が理解できる。
関 連 科 目	基礎看護学・人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進
成 績 評 価 方 法	出席状況（演習態度含む）・記録およびレポート・技術演習評価表

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
31	看護過程演習 1	(牛込三和子、鈴木珠水、北林司、萩原英子、小池菜穂子) 疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。(心不全・肺がん) まとめ	必修問題 Ⅰ. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 Ⅱ. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 Ⅳ. 看護技術の基礎的知識を問う。	
32	看護過程演習 2			
33	看護過程演習 3	疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。(膀胱がん・糖尿病) まとめ	人体の構造と機能 目標 1. ●日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 ● 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。	疾病の成り立ちと回復の促進 目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。
34	看護過程演習 4			
35	看護過程演習 5	疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。(直腸がん・白血病) まとめ	基礎看護学 目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う。 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 目標 3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。	成人看護学 目標 1. 成人の生活と健康
36	看護過程演習 6			
37	看護技術演習 1	創部管理；創部処置、ドレッシング材料の取り扱い、ストマケアの方法 栄養管理 1；血糖値測定		
38	看護技術演習 2			
39	看護技術演習 3	栄養管理 2；経管栄養、IVH、PEG		
40	看護技術演習 4			
41	看護技術演習 5	循環管理；患者監視装置 呼吸管理 1；肺活量測定、一回換気量測定、パルスオキシメーター		
42	看護技術演習 6			
43	看護技術演習 7	呼吸管理 2；ネブライザー、気管内吸引、人工呼吸器、NPPV、HOT、低圧持続吸引		
44	看護技術演習 8			
45	看護技術演習 9	(牛込三和子、鈴木珠水、北林司、萩原英子、小池菜穂子) 技術チェック（呼吸、循環、栄養）		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			<p>問題についての理解を問う。</p> <p>目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う・</p> <p>目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。</p> <p>目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。</p> <p>老年看護学</p> <p>目標 1. 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。</p> <p>目標 2. 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。</p>	

教科書	後日指定する。
参考書	

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅱ（46－60回）	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 （ 6 0 コ マ ）	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2. 機能障害をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1. 栄養代謝疾患、内分泌疾患、腎疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患、骨・関節・筋疾患、泌尿器疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、歯・口腔疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2. 栄養代謝疾患、内分泌疾患、腎疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患、骨・関節・筋疾患、泌尿器疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、歯・口腔疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。
関 連 科 目	基礎看護学・人体の構造と機能・老年看護学
成 績 評 価 方 法	出席状況・記録およびレポート・試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
46	小林 功 血液疾患		必修問題 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 IV. 看護技術の基礎的知識を問う。 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 成人看護学 目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。 目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う。 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。	
47	栄養代謝障害 1			
48	栄養代謝障害 2			
49	栄養代謝障害 3			
50	内分泌疾患			
51	腎疾患 1			
52	腎疾患 2			
53	感染症			
54	アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患			
55	泌尿器疾患			
56	女性生殖器疾患			
57	眼疾患			
58	耳鼻咽喉疾患			
59	皮膚疾患・歯・口腔疾患			
60	まとめ			

教 科 書	医学書院 系統看護学講座 【2】－【15】
参 考 書	随時紹介する

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 I	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習
科 目 の 目 的	高齢者の主な疾患と、老年期に特徴的な健康問題を理解し、老年期にある人の健康を保持・増進するための看護の役割と援助方法を学習する。また、医療的援助を受ける高齢者、終末期にある高齢者の治療の場に応じた援助方法、エンド・オブ・ライフケアを学習する。さらに、高齢者を対象としたアセスメント技術を学習する。
学 習 到 達 目 標	1) 疾患をもつ高齢者の特徴と対応の基本、高齢者の主な疾患を理解する。 2) 老年看護を展開するための基本技術を理解する。 3) 老年期に特徴的な看護問題の理解と、その予防・解決のための具体的援助方法を理解する。 4) 治療を受ける高齢者、終末期にある高齢者の、その特徴に応じた具体的援助方法を理解する。 5) 高齢者の特徴に応じたアセスメントの方法の理解と、具体的な展開技術を学習する。
関 連 科 目	1) 教養科目群：老年心理学・家族学・地域社会学・性別の社会科学・生物学基礎 2) 専門基礎科目群：解剖学・生理学・生化学・疾病の成り立ち・免疫感染症学・薬理学・臨床検査学・病態栄養学・リハビリテーション概論・栄養学・歯科保健・カウンセリング 3) 専門科目群：基礎看護学・成人看護学Ⅰ・成人看護学Ⅱ・精神看護学・地域看護学
成 績 評 価 方 法	期末試験、課題レポート、毎回のミニテスト、出席状況、授業への参加態度を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	疾患をもつ高齢者の理解と対応	予備力・適応力の低下、廃様症候群の予防、日上生活機能の維持・向上のための基本的対応	目標 2	
2	高齢者の主な疾患①	循環器・呼吸器疾患	2. 老年看護の基礎的技術 A. 高齢者の観察 a) 加齢変化の正常と異常 b) 生活障害の程度と範囲 c) 身体徴候と訴え	
3	高齢者の主な疾患②	運動器疾患	B. 高齢者とのコミュニケーション a) 加齢とコミュニケーション能力	
4	高齢者の主な疾患③	精神・神経疾患	b) 高齢者とのコミュニケーションの方法	
5	高齢者の主な疾患④	腎、泌尿器系疾患	C. 高齢者の障害受容への看護 a) 高齢者の障害受容のプロセス	
6	高齢者の主な疾患⑤	感覚器、皮膚疾患	b) 高齢者の障害受容の特徴の理解	
7	高齢者の主な疾患⑥	感染症	4. 障害・疾病をもつ高齢者への看護	
8	高齢者の主な疾患⑦	まとめ	I. 老年期に特徴的な疾患と看護 a) 老年期に特徴的な疾患の理解	
9	老年看護の基本技術	コミュニケーション技術、生活リハビリテーション	b) 老年期に特徴的な疾患をもつ患者の看護	
10	老年期の看護問題①	寝たきりと廃様症候群	5 治療を受ける高齢者への看護	
11	老年期の看護問題②	転倒と骨折	A. 薬物療法 a) 加齢と薬物動態	
12	老年期の看護問題③	摂食・嚥下障害	b) 疾患の重複による多剤投与	
13	老年期の看護問題④	脱水	c) 副作用をまねきやすい薬物	
14	老年期の看護問題⑤	褥創	d) 薬物副作用の徴候の観察・評価	
15	老年期の看護問題⑥	失禁	e) 薬物副作用の予防	
16	老年期の看護問題⑦	せん妄		
17	老年期の看護問題⑧	認知症高齢者と家族の理解		
18	老年期の看護問題⑨	認知症高齢者と家族への対応		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
19	老年期の看護問題⑩	事故予防	f) 服薬過誤の予防と看護 g) 薬物管理とリスクマネジメント B. 手術 a) 検査・手術に関する説明と了解 b) 術前の指導と術中・術後の管理 c) 早期離礁への援助 d) 術後せん妄と看護 e) 合併症の予防 C. 受療形態に応じた看護 a) 治療を受ける高齢者の心身の特徴と看護 b) 入院 c) 外来、デイケア	
20	治療を受ける高齢者の看護①	入院		
21	治療を受ける高齢者の看護②	検査・手術		
22	治療を受ける高齢者の看護③	薬物療法		
23	治療を受ける高齢者の看護④	リハビリテーション		
24	終末期にある高齢者の看護	高齢者のみとり、エンド・オブ・ライフケア		
25	高齢者のアセスメント技術①	健康歴の聴取		
26	高齢者のアセスメント技術②	身体機能の評価		
27	高齢者のアセスメント技術③	認知機能の評価		
28	高齢者のアセスメント技術④	課題学習ガイダンス		
29	まとめ			
30	試験			

教科書	「新体系看護学 29 健康障害をもつ高齢者の看護」鎌田ケイ子、川原礼子編（メジカルフレンド社）
参考書	「高齢者を知る事典」介護・医療・予防研究会編（厚生科学研究所） 「看護のための最新医学講座 17 老人の医療」日野原重明・井村裕夫監修（中山書店）

授業科目名	老年看護学Ⅱ	単位認定者	兔澤恵子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義および演習
科目の目的	健康な高齢者を対象としたアセスメントの実際と評価の経験をもとに、特徴的な疾患をもつ高齢者のアセスメントと看護技術、看護過程の展開方法を学習する。さらに、高齢者への援助技術を演習を通して学習する。
学習到達目標	1) 健康な高齢者へのアセスメントを行い、高齢者の全体像を描くことができる。 2) 特徴的な疾患をもつ高齢者のアセスメントを基に対象者の全体像を想定することができる。 3) 特徴的な疾患をもつ高齢者に必要な看護技術について演習を通して実施することができる。 4) 高齢者の特徴を踏まえ個別性を踏まえた看護過程の展開を行うことができる。 5) 高齢者への援助について自己評価し、知識・技術を深めることができる。
関連科目	これまでに履修した、専門基礎科目、専門科目。特に、成人老年看護学概論、老年看護学Ⅰ
成績評価方法	期末試験、課題レポート、ミニテスト、出席状況、授業への参加態度を総合した評価

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	アセスメント演習Ⅰ	健康な高齢者のフィジカルアセスメントを基に、方法の確認と評価を行う。	2. 老年看護の基礎的技術 A 高齢者の観察 a 加齢変化の正常と異常、 b 生活障害の程度と範囲、 c 身体徴候と訴え B 高齢者とのコミュニケーション a 加齢とコミュニケーション能力 b 高齢者とのコミュニケーションの方法 C 高齢者の障害受容への看護 a 高齢者の障害受容のプロセス b 高齢者の障害受容の特徴の理解	
2	アセスメント演習Ⅱ			
3	アセスメント演習Ⅲ			
4	特徴的な疾患を持つ高齢者への看護Ⅰ	「大腿骨頸部骨折」のある高齢者のアセスメントと必要な看護技術について考え計画の立案を行う。	4. 障害・疾病をもつ高齢者への看護 A 骨粗鬆症 a 骨粗鬆症の程度と生活への影響 b 転倒・骨折予防 c 合併症の予防 B 視覚障害 a 視覚障害の程度と生活への影響評価 b 住環境の整備 C 聴覚障害 a 聴覚障害の程度と生活への影響の評価 b 会話の方法 C コミュニケーション障害と原因の把握 a 生活への影響の評価 b 他者との交流の促進への看護 D 排泄コントロール障害 a 排泄コントロール障害の原因の把握と生活への影響の評価 b 排泄コントロールに対する看護 E 日常生活動作の障害 a 日常生活動作評価と看護	
5	特徴的な疾患を持つ高齢者への看護Ⅱ	「脳梗塞」のある高齢者のアセスメントと必要な看護技術について考え計画の立案を行う。		
6	特徴的な疾患を持つ高齢者への看護Ⅲ	「認知症」のある高齢者のアセスメントと必要な看護技術について考え計画の立案を行う。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7	看護過程の展開Ⅰ	グループワークを通して看護展開を深める。 グループワークの成果を発表し意見交換を通して相互に学習する。	b 自助具の選択整備	
8	看護過程の展開Ⅱ		c 日常生活動作能力再獲得のための看護	
9	看護過程の展開Ⅲ		d 残存機能を引き出す援助と方法	
10	看護過程の展開Ⅳ		F 長期臥床状態・廃用性症候群	
11	高齢者への援助技術Ⅰ		a 長期臥床状態の原因の把握	
12	高齢者への援助技術Ⅱ		b 生活機能障害の程度と残存機能評価	
13	高齢者への援助技術Ⅲ		c リハビリテーションに向けた看護	
14	高齢者への援助技術Ⅳ		d 合併症の予防	
15	終講試験		G 認知症・精神障害	
			a 痴呆の種類と評価方法	
			b 物忘れと記憶障害	
			c 見当識障害	
			d 精神症状	
			e コミュニケーション	
			f 日常生活遂行能力	
		H 骨粗鬆症		
		a 骨粗鬆症の程度と生活への影響		
		b 転倒・骨折予防		
		c 合併症の予防		
		3. 高齢者の健康を支える看護		
		A 健康生活の維持		
		a 食生活と栄養		
		b 運動とレクリエーション		
		c 身だしなみ		
		B 事故・災害の予防への対応		
		a 転倒・転落		
		b 救急時の対応		

教科書	「新体系看護学 27 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護」鎌田ケイ子・川原礼子編（メジカルフレンド社）
参考書	「フィジカルアセスメント -ナースに必要な診断の知識と技術-」日野原重明編集（医学書院）

授 業 科 目 名	臨 床 看 護 管 理 学	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療施設等における看護管理の基本について学ぶ。 医療は、人のいのちを支える活動であり、看護師は、医療チームの一員として、病院では、24時間活動して、患者さんのいのちを支えている。看護サービスの質は、患者さんのいのち、生活の質に影響する。医療施設における看護サービスの質を保証するためのシステム、活動を学び、看護師としてこのことにどう向き合っていくのかを考える。
学 習 到 達 目 標	1. 看護管理を支える組織、リスクマネジメントの基本、関連する社会制度、法を理解できる。 2. 病院における安全管理のシステムと実際を理解できる。 3. 医療チームの一員として、看護チームの一員として、どのように仕事をしていくのか考えられる。
関 連 科 目	看護学
成 績 評 価 方 法	筆記試験またはレポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	牛込三和子 臨床看護管理学を学ぶにあたって	・医療機関で、看護チームの一員として働くということ	【基礎看護学】 目標 3. 保健・医療・福祉のなかで看護の果たす役割についての理解を問う。 1. 看護の役割と機能を支えるしくみ D. 看護管理 a) 看護提供システム(チームナーシング、プライマリナーシング、機能別看護) b) クリティカルパス c) リーダーシップとメンバーシップ d) 自己管理・防止システム 【必修問題】 IV. 看護技術の基礎的知識を問う。 3. 患者の安全・安楽を守る技術 C. 院内感染防止対策 【基礎看護学】 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 1. 共通基本技術 C. 安全を守るための技術 a) 感染コントロール	
2	會田秀子 医療安全	保健師助産師看護師法の枠組み 事故事例と法(刑事・民事・行政処分) 事故後の当事者教育		
3	ヒューマンエラー (羽鳥)	ヒューマンエラー発生メカニズムと対策 航空機事故と医療事故調査の比較		
4	コミュニケーション (羽鳥)	医療者の言葉を患者がどう理解するか 医療者と医療者の報告・伝達		
5	事故事例分析	医療現場で起こる事故事例とその分析		
6	医事紛争	医療事故被害者の思い コンフリクトマネージメント		
7	感染防止	院内感染の知識と防止対策 看護技術に焦点を合わせた感染防止		
8	まとめ			

教 科 書	特になし
参 考 書	「医療安全ワークブック」川村治子(医学書院) 「実践できる転倒・転落防止ガイド」三宅祥三・杉山良子(学研)

授 業 科 目 名	救 急 看 護	単 位 認 定 者	北 林 司
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	救急医療体制における看護師の役割を理解するとともに、病院に搬入されてくる各種救急患者に施される処置、検査に対応する看護活動を理解する。
学 習 到 達 目 標	1. わが国の救急医療体制が理解できる。 2. 救急医療体制における看護師の役割が理解できる。 3. 気道確保、静脈路確保、創傷処置、骨折に対する四肢の固定、NGチューブおよびSBチューブ挿入の方法がわかり実践・介助できる。 4. 心停止、ショック、呼吸困難、意識障害、外傷・熱傷などの患者への対処方法が理解できる。
関 連 科 目	解剖学・生理学・疾病の成り立ちと回復の促進・薬理学・成人看護学・救急法
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	わが国の救急医療体制と看護師の役割	1次救急医療・2次救急医療・3次救急医療について概説し、救急医療施設における看護師の役割について解説する。また、救急医療に関連する法律および看護業務と法律についても解説する。	III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎知識を問う。 1. 生命活動 A 人体の構造と機能 a. 血液 e. 循環器 f. 呼吸器 k. 骨・筋 2. 病態と看護 A 症状と看護 e. チアノーゼ f. 呼吸困難 g. 胸痛 h. 不整脈 i. 血圧上昇、低下 r. ショック 3. 主要疾患と看護 C 外傷 a. 骨折 b. 創傷の治癒過程 c. 外傷性ショック 4. 薬物治療に伴う反応 c. 強心薬・抗不整脈薬 d. 狭心症治療薬 e. 降圧薬・昇圧薬 f. 副腎皮質ステロイド薬	
2	気道確保法および静脈路確保の方法	用手気道確保と気管内挿管について解説し、マネキンを用いて気管内挿管・静脈路確保について演習する。		
3	創傷処置、骨折時の四肢の固定方法	止血方法、消毒方法、縫合方法、ドレッシングの方法について解説しモデルを用いて演習する。また、四肢の骨折時における固定方法を解説しモデルを用いて演習する。		
4	NGチューブ、SBチューブ留置	NGチューブ、SBチューブ留置の目的、必要物品、留置手順について解説する。		
5	心停止・ショック	心室細動、脈の触れない心室頻拍、心静止、無脈性電気活動、看護師としてのチェック項目について説明する。また、上記4つの病態に応じた処置と看護について解説する。 ショックの病態・分類、看護師としてのチェック項目について解説する。また、ショック患者に対する処置と看護について解説する。	IV. 看護技術の基礎的知識を問う。 3. 患者の安全・安楽を守る技術 C 院内感染防止対策 a. スタンダードプリコーション b. 手洗いの方法 c. 無菌操作 d. 滅菌と消毒の方法 e. 針刺し・切創の防止 f. 感染性廃棄物の取り扱い	
6	呼吸困難・意識障害	呼吸困難をきたす病態・疾患、看護師としてのチェック項目について解説する。また呼吸困難患者に対する処置と看護について解説する。 意識障害の原因、看護師としてのチェック項目、処置および看護について解説する。	4. 診療に伴う看護技術 B 薬物療法 a. 与薬方法 C 輸液管理 a. 刺入部位の観察 b. 滴下速度 c. 輸液ポンプの取り扱い d. 安全・安楽 F 酸素吸入 a. 酸素吸入時の原則 b. 酸素ボンベの取り扱い c. 酸素流量計の取り扱い d. 鼻腔カニューラ e. マスク	
7	外傷・熱傷	頭部外傷、胸腹部外傷、四肢外傷、熱傷に対する処置および看護について解説する。	H 救急救命処置 a. 気道の確保 b. 人工呼吸 c. 心マッサージ d. 止血 e. 体温の保持	
8	筆記試験		人体の構造と機能	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			4. 循環系 A 心臓 a. 心臓と心筋の構造 b. 心臓の機能 c. 刺激伝道系 B 血管系 a. 肺循環と体循環 b. 動脈系と静脈系 c. 脈拍 d. 血圧 9. 呼吸の機構 A 換気と発声 c. 気管・肺の構造と機能 d. 呼吸運動 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 1. 中枢神経機能の障害 A a. 脳血管系の循環障害 b. 頭蓋内圧亢進を伴う疾患 f. 頭部の外傷 2. 生命維持機能の障害 A 生命の危機 a. ショック d. 急性および慢性の呼吸不全 C 循環機能の障害 b. 後天的に心機能の障害を引き起こす疾患 c. 心筋の酸素欠乏による新機能の障害 d. 新機能の低下をきたした状態 e. 心臓のリズムの障害 成人看護学 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う 2. 急激な身体侵襲により急性期Ⅱある患者の看護 A 救急救命時の看護 a. 緊急性と原因のアセスメント b. 心肺蘇生法 c. 気管切開・気管内挿管時の援助 e. 外傷・熱傷・骨折の応急処置	

教科書	「救命救急エキスパートナーシング」大橋教良・澁谷正徳・坂本哲也（南江堂）
参考書	

授業科目名	母性看護学概論	単位認定者	早川有子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	地域や家庭・家族を含めた生涯を通して性と生殖に関する母性看護の役割を理解する。
学習到達目標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況を理解する。 母性看護の基盤となる知識を理解する。 女性の周期性の変化について口答で説明ができる。
関連科目	教養科目群—生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 専門基礎科目群—解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学 栄養学 免疫・感染症学・疾病の成り立ち・薬理学 専門科目群—看護の専門科目
成績評価方法	出席状況 課題レポート 試験(臨時 定期)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	母性看護の概念	母性(父性)とは、セクシュアリティ リプロダクティブヘルツ/ライツ ジェンダーなど	母性看護の概念 A 母性看護のおもな 概念 a 母性とは b ジェンダー c 家族の発達	
2	母性看護の機能と役割	母性看護とは 意義・役割・現状・今後の課題と展望	B 母性看護と倫理 a 妊産婦・胎児お よび新生児の権 利と擁護 b 自己決定の尊重 c プライバシーの 保護	
3- 5	母性看護の変遷と諸 施策	母性看護の変遷、女性をめぐる諸施策を学ぶ。	C 母性看護と法整備 a 地域における子育 て支援 b 就労と母性 C 母体保護法 d 母子保健法	
6- 8	性の分化と胎児期に おける生殖器の発育	性分化のメカニズム 生殖器の形態・機能 女性外性器・内性器 男性性生殖器 女性生殖器の機能 月経周期 調節機序 卵巣の周期的変化 子宮内膜の周期的変化	1. 人間の性と生殖 A 人の発生と遺伝的要 素 a 発生のメカニズ ム b 染色体・遺伝子 B 性周期と生殖機能のメ カニズム a 性周期とホルモン b 受胎のメカニズム c 性行動 a 性反応 b 性感染症 D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶 d ハイリスク児の医 療	
9- 13	現代女性のライフサ イクル 女性のライフサイク ルと健康	女性のライフサイクルの変化—高齢化・少子化 多様化する女性のライフスタイル ・高学歴化及び晩婚化・労働力率 ・新婚期・育児期・発展期・充実期・向老期・老年期 ライフサイクル各期の健康問題と看護 思春期・成熟期・更年期・老年期		
14	母性看護と倫理	生命倫理と看護倫理	目標：新しい家族の誕生 期にある人々が健 康生活を営むため の看護実践に必要 な基礎的能力を問 う。	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	まとめ	まとめ 母性看護の今後の課題と展望	2. 女性のライフサイクル各期における看護 A 思春期にある人々の看護 a 第二性徴 b 心理的特徴 B 成熟期にある人々の看護 a 家族計画の意義 b 不妊治療と看護 C 更年期にある人々の看護 a ホルモンの変化と閉経 b 骨粗しょう症の予防	

教科書	「母性看護学概論」森恵美他（医学書院）
参考書	必要時提示する。

授業科目名	母性看護学Ⅰ	単位認定者	早川有子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	母子保健にかかわる看護の役割を理解する。
学習到達目標	1. 母子の健康問題に関係ある因子が理解できる。 2. 母子の健康増進のための看護について理解できる。
関連科目	教養科目群：生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群：発達心理学 免疫感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）
成績評価方法	課題に対するレポート、定期試験、出席状況、学習態度にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	母子保健の現況	母子保健の諸統計と現況について学ぶ。		
2 - 6	母子保健と環境 - 母子と健康生活	母子保健に影響を与える因子について学ぶ。 ・精神的要因：恋愛、家族、女性の生き方、サポートシステムなど ・社会的要因：経済、教育、文化、医療など ・環境的要因：自然環境、人為的環境など ・身体的要因：栄養、喫煙、飲酒など	A 妊婦の看護 b) 妊婦の心理 d) 妊婦の日常生活とセルフケア f) 親役割の準備	
7	母子と感染症	感染症と母子保健について学ぶ。	C 性行動 a) 性反応 b) 性感染症	
8 - 12	母子と健康問題	妊・産・褥期によくみられる健康問題について学ぶ。	A 妊婦の看護 c) 妊娠と不快症状 e) 出産・育児の準備 C 褥婦の看護 c) 褥婦の日常生活とセルフケア	
13	育児支援	少子化と育児支援について学ぶ。	C 母性看護と法整備 a) 地域における子育て支援	
14	性科学と母子保健	性科学をめぐる最近の話題(性同一性障害など)について学ぶ。	D 生殖をめぐる倫理	
15	全体のまとめ			

教科書	①「妊・産・褥婦のよくあるトラブル」早川有子、澤田只夫、(医学書院) ②「母性看護学各論」母性看護学Ⅱ 森恵美他(医学書院)
参考書	必要時提示する。

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 II	単 位 認 定 者	早 川 有 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 演習
科 目 の 目 的	妊娠・分娩・産褥（新生児含）期に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、その中で母性看護の役割を考える。また、個別看護が展開できるための基礎的知識・技術を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1. 正常経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児とその看護が理解できる。 2. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過とその看護が理解できる。 3. 人間の性と生殖とその看護について理解できる。 3. 母子看護とその家族への支援について理解できる。 4. 母子看護に必要な基礎的技術を習得する。
関 連 科 目	教養科目群：生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群：生理学 生化学 発達心理学 免疫感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）
成 績 評 価 方 法	課題に対するレポート、小テスト、定期試験にて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1- 2	妊娠の始まりと胎児の成長	・妊娠の成立、胎児の発育と発達について	2-A 胎児期:a 形態的発達 4-A 妊婦の看護:a 妊娠の経過と胎児の発育 b 妊婦の心理 c 妊娠と不快症状 d 妊婦の日常生活とセルフケア e 出産・育児の準備 f 親役割	
3- 4	妊娠経過と看護	・妊娠の経過（からだと心の変化：妊婦・胎児） ・妊婦の看護（健康管理・保健指導・妊婦とその家族）	5-A 妊婦の看護:a 流産 b 早産 e 妊娠高血圧症候群	
5- 6	妊娠期の健康問題とその看護	・ハイリスク妊娠（流産・早産の看護） ・ハイリスク妊娠（妊娠高血圧症候群）	4-B 産婦の看護:a 分娩の経過と胎児の健康状態 b 出産様式、c 産痛の緩和 d 産婦と家族の心理	
7- 8	分娩の経過と看護	・分娩の生理と経過 ・産婦の看護（分娩経過に伴う看護、産婦とその家族）	5-B 産婦及び胎児の看護 a 胎児仮死 b 帝王切開術	
9- 10	異常分娩と看護	・帝王切開と看護 ・前置胎盤・常位胎盤早期剥離の看護 ・胎盤の異常	4-C 褥婦の看護:a 産褥の経過 b 褥婦の心理 c 褥婦の日常生活とセルフケア	
11 - 12	技術演習	・妊婦・産婦の技術演習（妊婦体験ジャケット・レオポルド触診・腹囲・子宮底測定・妊婦体操・産痛緩和法など）	4-D 新生児の看護:a 親子関係 b 育児技術	
13 - 14	産褥経過と看護	・産褥の経過（からだと心の変化） ・産褥期にある女性とその家族への日常生活の援助 ・母乳栄養確立への援助	5-C 褥婦および新生児の看護：低出生体重児、先天異常、障害を持つ新生児、死産	
15 - 16	新生児経過と看護	・新生児の特性と看護（からだと心） ・早期産褥期・早期新生児期の支援	2-D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶	
17 - 18	新生児期の健康問題とその看護	・健康障害のある新生児の看護について ・胎児仮死、低出生体重児、黄疸、先天異常等 ・先天異常、障害をもつ新生児、児を亡くした褥婦の看護	3-B 成熟期にある人々の看護 a 家族計画の意義	
19 - 21	人間の性と生殖	・不妊治療 ・不妊治療と看護（生殖をめぐる倫理含む） ・家族計画・人工妊娠中絶		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
22 - 23	技術演習	・褥婦・新生児の技術演習（沐浴・外陰部消毒・授乳介助 産褥体操等）	b 不妊治療と看護	
24 - 25	フィジカルアセスメント	・妊婦・産婦・褥婦・新生児フィジカルアセスメント		
26 - 29	看護過程の展開	・事例による看護過程の展開（情報収集・分析・問題点・解決策・具体策・具体策に対する指導案作成等）		
30	全体のまとめ			

教科書	①「母性看護学各論」母性看護学Ⅱ（医学書院） ②「妊・産・褥婦のよくあるトラブル」早川有子、澤田只夫（医学書院）
参考書	①「母性看護学1、2」（医歯薬出版） ②「母性看護技術」（メディカ出版）

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 特 論	単 位 認 定 者	早 川 有 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	最近の母性看護の動向を学ぶことを通して、発展的視野で母性看護の役割と今後の課題を考える。
学 習 到 達 目 標	1. 母性看護の役割と意義を考えることができる。 2. 母性看護を支援する社会システム・保健医療システムを理解する。 3. 母性看護の現状から今後の課題が考えられる。
関 連 科 目	母性・小児看護学、心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論、健康管理論ほか
成 績 評 価 方 法	講義への出席と参加度、課題によって総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 - 3	母性看護の現状	<ul style="list-style-type: none"> 母性看護学特論の概要 母子に関する現状と課題を最近のトピックス（雑誌・新聞など）から考える。 	2. 人間の性と生殖 C 性行動 a 性反応 b 性感染症	
4 - 6	育児支援	<ul style="list-style-type: none"> 母子を取り巻く（家族・地域・社会）環境を調査或は訪問を通して把握し、育児支援の今後の課題を考える。 例 ①市役所 ②マタニティーコーナー ③母親グループによる育児支援の実際 ④病院・助産所・託児所、家庭 ⑤育児休暇の取得など 	1. 母性看護の概念 C 母性看護と法整備、 a 地域における子育て支援	
7	母乳育児支援	<ul style="list-style-type: none"> 母乳育児支援について考える。 母乳の味 母乳とミルク 母乳と食事 *味センサーを使用し実験する。 		

教 科 書	使用せず
参 考 書	必要時提示する。

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 概 論	単 位 認 定 者	木 内 妙 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	次世代を担う存在である子どもとその家族の健康生活のために、小児看護が果たす役割と課題について学ぶ。今日の子どもの置かれている状況と、子どもが健やかに発育するための社会システム・保健医療システムを学び、子どもの健康問題解決のための方略について考察する。
学 習 到 達 目 標	1. 現代社会における小児看護の意義と役割を理解する。 2. 子どもの成長発達・健康・生活の概念を理解する。 3. 子どもの生活援助に必要な基礎知識を理解する。 4. 子どもの健康な成長発達を支援するための社会システム・保健医療システムを理解する。
関 連 科 目	母性・小児看護学（小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論）、臨地実習（小児看護学実習）、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群（心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など）、臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか）、地域科目群（公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか）
成 績 評 価 方 法	講義への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	小児看護の理念	小児看護とは、小児看護と関連法、小児看護と倫理、	【目標1】 1. 子どもと家族の健康の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子どもの健康増進のための看護 ≪地域看護学Ⅱ≫ 6. 母子保健指導 B. 乳幼児期の成長発達と生活の特徴 ≪必修問題≫ I. 4. 看護の倫理 II. 2. 人間の成長と発達	
2	小児看護の歴史と将来	子どもの人権、アドボカシー、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント		
3	子どもの健康	健康な子ども観、子どもが健康に生活するということ		
4	子どもと家族	健康な子どもの生活とライフサイクル、子どもの健康と家族の関係		
5	子どもの成長発達と看護	成長発達とは、成長発達の原則、成長発達と発達課題形態的発育と機能発達、精神・運動機能の発達		
6		成長・発達のアセスメントと評価、発達と環境		
7				
8	子どもの栄養と食生活	子どもの栄養の特徴、発達段階と栄養所要量		
9		発達段階と栄養摂取法の変化ー吸啜から摂食へ摂食機能の発達、乳児期・幼児期・学童期・思春期の栄養		
10	乳幼児期の子どもと健康生活	乳幼児期の子どもと健康生活、基本的生活習慣の確立と養育、乳幼児のいる家族への看護、子どもの生活と遊び、		
11				
12				
13	学童・思春期の子どもの健康生活と看護	学童期・思春期の健康生活、学童期・思春期の子どもの食生活、学童期・思春期の子どもがいる家族への看護		
14	子どもをまもるための政策・小児保健活動の実際	子どもをまもるための法律と政策、予防接種		
15		乳幼児期の保健・学校保健・思春期保健		

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第11版」奈良間美保他著(医学書院)2007
参 考 書	

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 I	単 位 認 定 者	木 内 妙 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義・演 習
科 目 の 目 的	常に成長・発達し続けている存在である子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのような影響を受けどのように適応しようとしているのかを理解する。さらに、子どもに起りやすい健康障害の特徴や、それぞれに対する有効な介入方法、すなわち小児看護の実際について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1. 健康障害が、子どもと家族に与える影響とそれに付随した生活の変化について理解する。 2. 健康障害・闘病体験を通し、子どもと家族の反応や体験の意味付けについて理解する。 3. 子どもに起りやすい健康障害、症状、病理学的メカニズムを理解する。 4. 健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解する。 5. 健康障害を抱えた子どもと家族にとっての最善の利益に、小児看護が果たす役割を考察する。
関 連 科 目	母性・小児看護学（小児看護学概論、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論）、臨地実習（小児看護学実習）、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群（心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など）、臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか）、地域科目群（公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか）
成 績 評 価 方 法	講義・演習への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	現代社会に生きる子どもをめぐる諸問題 子どもをめぐる健康問題	子どもにかかわる健康問題, 事故防止と安全教育 事故防止と安全教育, 子どもの事故対策の必要性, 子どもの事故の発生要因, 子どもの事故の実態, 事故防止の具体策・安全教育, 「健康日本 21」と「健やか親子 21」、子どもの救急処置の実際	【目標2】 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 A. 病気や入院が子どもと家族に与える影響 B. ストレスを緩和するための看護	
3 4	子どもと病気, 子どもの感染症おもな疾患の特徴と治療	子どもの免疫と感染症の特徴、病期別の特徴(潜伏期、急性期、回復期など)、ウイルス感染症、細菌感染症	2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族	
5 6	呼吸器系の疾患の特徴と治療、免疫・アレルギー疾患、膠原病の特徴と治療	上気道の炎症(かぜ症候群、急性咽頭炎、クループ症候群)、気管支・肺・胸膜疾患(急性気管支炎、細気管支炎、肺炎など)、アレルギーの発生機序、アレルギー性疾患(気管支喘息、アレルギー性鼻炎、食物アレルギーなど)、膠原病(若年性関節リウマチなど)	E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族	
7 8	循環器系の疾患の特徴と治療、消化器系の疾患の特徴と治療	先天性心疾患、後天性心疾患、消化器疾患による子どもの影響、子どもの全身麻酔と手術療法、口腔疾患、横隔膜・食道の疾患、胃・十二指腸・腸の疾患、腹膜・腹壁・肝臓・胆道の疾患、急性乳児下痢症など	H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族	
9 10	小児がんの特徴と治療・血液疾患の特徴と治療	小児がんの発生頻度と予後、小児がんのおもな検査と治療方法、疾患別プロトコル、おもな小児がん(網膜芽腫、神経芽腫、ウィルムス腫瘍、悪性リンパ腫、白血病、脳腫瘍、骨肉腫・ユウイング肉腫など)、貧血・出血性疾患(再生不良性貧血、血管性紫斑病など)	《地域看護学Ⅱ》 6. 母子保健指導 D. 健康上のリスクをもつ母子への保健師動 a) 心身障害児 c) 子どもの虐待	
11 12	腎・泌尿器・生殖器疾患の特徴と治療、内分泌・代謝疾患の特徴と治療	泌尿・生殖器・尿路の奇形(腎奇形、尿道下裂、停留精巣、膀胱尿管逆流症など)、腎糸球体疾患(糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全など)、新生児マスキリーニングテストについて、先天代謝異常症(ムコ多糖症、骨形成不全症、糖尿病など)、内分泌疾患(下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患など)、		
13 14	神経疾患・運動器疾患の特徴と治療、染色体異常の特徴と治療	神経系の疾患(水頭症、てんかん、進行性筋ジストロフィー症など)、運動器疾患(先天性股関節脱臼、先天性内反足、先天性筋性斜頸、ペルテス病、骨折と牽		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	療	引療法など)、・染色体異常(ダウン症候群、18トリソミー症候群など)		
16	低出生体重児、子どもの事故・外傷、精神疾患、今日的課題	低出生体重児の疾患(分類、ハイリスク新生児、脳室内出血、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症、高ビリルビン血症、成熟異常など)、倫理的課題(傷害なき救命と生育限界など)、おもな事故・外傷(頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、中毒、熱傷など)と救急処置、自閉症、精神発達遅滞、ADHD(注意欠陥多動性障害)、不登校、摂食障害、児童虐待		
17	子どもと健康障害、子どもの闘病体験	病気、病気や入院が子どもに与える影響、病気や入院に対する子どもの反応(心理的混乱の表出方法)、子どもの心理的混乱の程度に関する要因、分離不安と看護の役割		
18	病気の子どもと家族	健康障害の子どもと家族、家族のセルフケア機能、家族の相互作用システム、子どもの健康障害が起こす家族の変化、きょうだい児への影響、家族システムへの影響、家族のストレス因子、家族のアセスメントと看護介入		
19	子どもへのインフォームド・コンセント	プリパレーションとは、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント、子どもの権利の保障、プリパレーションの方法と内容、プリパレーション実施のプロセス、乳幼児期の子どもへの接近方法		
20	プリパレーション、検査や処置を受ける子どもの看護			
21	子どものヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント	成長発達のアセスメント、フィジカルアセスメント、身体発育の評価(観察・計測・指数、標準値との比較など)精神・運動機能の発達評価、子どもの一般状態の把握、子どものバイタルサインの測定・正常範囲と正常逸脱範囲、病気の子どもの観察方法、具体的観察のトレーニング		
22				
23	子どもの主要症状別看護	子どもの身体状況が変化しやすい理由=機能的特徴、子どもの機能的発達の特徴(呼吸・循環・体温・消化・水分代謝など)、子どもが起こしやすいおもな症状のメカニズムとその看護(不機嫌、発熱、脱水、下痢・嘔吐、けいれんなど)		
24				
25	病気の子どもの安全	病気のこどもに起こりやすい事故、子どもの特徴から治療に関連した事故、検査や処置に関連した事故、生活の中で起こる事故、子どもの事故を防ぐための看護		
26	病気の子どもの最善の利益を考える	事例を通して学ぶワークショップ		
27				
28				
29				
30	試験			

教科書	1.「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第11版」奈良間美保他著(医学書院)2007 2.「標準看護学講座 29 小児看護学」小沢道子他編(金原出版)2001
参考書	「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント3-4章2節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子(メディカ出版)2004.

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 II	単 位 認 定 者	木 内 妙 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義 ・ 演 習
科 目 の 目 的	さまざまな病気や障害など、何らかの健康問題を抱えた子どもとその家族の特徴や精神的・身体的・社会的諸問題について事例を通して理解を深める。また、それらに応じた看護について学ぶ。さらに、疾患・障害を持った小児とその家族を支える保健・医療・福祉・教育等様々な領域の社会資源と、その活用の意義や方法についても学習する。
学 習 到 達 目 標	1. 健康障害を抱えた子どもと家族の生活が、どのように変化しているかを理解する。 2. 健康問題を抱えた子どもとその家族の経過別、発達段階別の特徴を理解する。 3. 健康問題を抱えた子どもとその家族の精神的・身体的・社会的諸問題の実際を理解する。 4. 健康障害を抱えた子どもと家族への具体的看護介入の方法について学び、子どもの最善の利益について考察する。 5. 健康障害を抱えた子どもと家族のための社会資源とその活用方法について理解する。
関 連 科 目	母性・小児看護学（小児看護学概論、小児看護学Ⅰ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論）、臨地実習（小児看護学実習）、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群（心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など）、臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか）、地域科目群（公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか）
成 績 評 価 方 法	講義・演習への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	乳児期－急性期の子どもと家族の看護	先天性心疾患（VSD、ファロー四徴症など）の事例から考える、乳児期の子どもの急性症状のアセスメント、循環器系の主要症状についてのアセスメント、看護介入の方法、難病の子どもと家族を支える社会システム、親の会の活動、事例のアセスメント	【目標2】 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 A. 病気や入院が子どもと家族に与える影響 B. ストレスを緩和するための看護	
3 4	幼児期－急性期～慢性期の子どもと家族の看護	川崎病、髄膜炎などの事例から考える、幼児期の子どもの急性症状のアセスメント、薬物療法と子どもへの与薬方法、看護介入の方法、事例のアセスメント	2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族 E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族 H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族	
5 6	学童期－急性期～慢性期の子どもと家族の看護	気管支喘息の事例から考える、学童期の子どもの急性症状のアセスメント、呼吸器系の急性症状のアセスメント、子どものセルフケアとコンプライアンス、看護介入の方法、喘息の子どもを支える社会活動（喘息児のサマーキャンプなど）事例のアセスメント		
7 8	思春期－慢性期の子どもと家族の看護	ネフローゼ症候群（急性糸球体腎炎など）の事例から考える 腎・泌尿器系の主要症状のアセスメント、思春期の子どもの特徴、薬物療法への看護、ボディイメージの変化への対応、看護介入の方法、病気の子どものと学校、事例のアセスメント		
9 10	手術を受ける子どもと家族の看護	子どもへの全身麻酔、手術前後の看護、小児外科治療の現状と看護、Day surgery Preparation など、外来における看護 重症・救急時の子どもと家族の看護	《地域看護学Ⅱ》 6. 母子保健指導 D. 健康上のリスクをもつ母子への保健師動 a)心身障害児 c)子どもの虐待	
11	予後不良の子どもと家族の看護	白血病、小児悪性腫瘍などの事例から考える、血液・免疫系の主要症状のアセスメント、よいターミナルケアとは、家族の悲嘆過程		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12	低出生体重時と家族の看護 障害のある子どもと家族の看護	低出生体重児の特徴と看護、家族の変化ときょうだい児への影響、家族システムへの影響、未熟児ケアの実際、障害児の療育と看護、家族支援、障害児と家族を支える社会システム、生育限界と倫理問題		
13	病気の子どもの全身管理・口腔管理	子どもの病気と口腔管理、口腔管理に看護が果たす役割りを考える		
14 15	小児看護に必要な看護技術 小児看護に必要な看護技術	乳児の抱き方、乳児のおむつ交換、 子どもの観察（バイタルサインの測定など）、 治療を受ける子どもの固定・抑制方法 など		

教科書	1. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第11版」奈良間美保他著（医学書院）2007 2. 「標準看護学講座 29 小児看護学」小沢道子他編（金原出版）2001 3. 「ナーシング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編（メディカ出版）2007.
参考書	「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント3-4章2節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子（メディカ出版）2004.

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 特 論	単 位 認 定 者	木 内 妙 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講 義、ゼミ形式
科 目 の 目 的	現代社会に生きる子どもが置かれている状況と健康問題を幅広い視点から把握する。その子どもと家族の最善の利益と問題解決のために、看護が果たす役割について考察する。
学 習 到 達 目 標	1. 現代社会における子どもと家族の健康問題について、学生の関心に基づき情報収集を行う。 2. 得られた情報に基づき、学生間で問題解決の方法や子どもの最善の利益について、アドボカシーの観点から討議する。 3. 討議内容を踏まえ、子どもの未来のために看護の果たしうる役割と可能性について考察する。
関 連 科 目	母性・小児看護学（小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論）、臨地実習（小児看護学実習）、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群（心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など）、臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか）、地域科目群（公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか）
成 績 評 価 方 法	講義、ゼミへの出席と参加度、課題レポートによって総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ガイダンス	毎回ゼミナール方式で、学生の興味・関心に基づき討議を進める。	【目標1】 1. 子どもと家族の健康の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子どもの健康増進のための看護 【目標2】 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族 E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族 H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族	
2	子どもの健康問題についての討議			
3	同上			
4	同上			
5	同上			
6	同上			
7	同上			

教 科 書	特に使用しない
参 考 書	参加学性の興味関心によって、選択する

授業科目名	精神看護学概論	単位認定者	齋藤和子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人として生きていく上で、心がいかに大きな働きをもつかを正しく理解するために、心の発達と健康、心の育みに影響を与える内外の環境のありようを学び、精神保健の位置付け及び機能について理解する。
学習到達目標	1. 心と身体に関連を知る。 2. 心の健康と障害の捉え方、社会化とメンタルヘルスの関係、精神に障害をもつ人が感じる世界、その援助の本質を理解できる。
関連科目	「解剖学」「発達心理学」「家族学」「精神臨床看護学」他
成績評価方法	定期試験、授業の中で指示した提出課題

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	心とは	脳と心 心(精神)と身体の関係	目標1-1精神の健康 A	
2	〃		精神の構造, B 精神の機能と障害	
3	精神看護学の考え方	心の健康・不健康, 心の病気の考え方	目標1-1精神の健康 C	
4	〃	精神看護学における看護師の役割	クライシス, D リエゾン 目標2-1精神看護の基本 概念D看護モデル	
5	心の健康	心の健康維持	目標2-1精神看護の基本 概念A生物学的モデル, B精神分析モデル,	
6	心の発達と健康	心の発達理論 成長各期の発達	目標2-1精神看護の基本 概念C成長発達モデル	
7	〃			
8	人間関係と心の働き	人間関係の中での心の問題 心の問題への対応	目標1-1精神の健康 C	
9	〃		クライシス, D リエゾン 目標2-1精神看護の基本 概念D看護モデル	
10	環境と心の働き	環境と心の健康 教育の場と心の健康	目標2-1精神の健康 C	
11	〃	職場と心の健康 地域社会と心の健康	成長発達モデル	
12	危機状況と心の働き	発達段階での危機の諸相と危機介入	目標2-1精神看護の基本 概念C成長発達モデル	
13	〃	医療現場における危機の諸相 災害時など特殊な状況における危機の諸相	目標2-2看護援助技法B 精神状態・問題行動と看護 援助方法	
14	地域保健活動の展開	精神保健の概念 地域精神保健福祉活動	目標3-2地域精神保健C 地域生活支援の技術	
15	わが国の精神保健福祉制度	精神保健福祉の変遷 精神保健福祉法と医療・行政	目標3-2地域精神保健A 精神保健福祉の法制化	

教科書	・「新体系看護学 34 精神看護学① 精神看護概論・精神保健」佐藤 三 (メヂカルフレンド社)
参考書	・「アダルトチルドレンと家族」斎藤学 (学陽書房) ・「驚異の小宇宙・人体Ⅱ脳と心」養老孟司他 (NHK 出版)

授 業 科 目 名	精 神 臨 床 看 護 学	単 位 認 定 者	松 岡 治 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義, 演習(看護過程)
科 目 の 目 的	精神に障害をもつ人に見える世界・心情を科学的にも説明することができて, その対象個々が求める援助の在り方について正しく理解する。
学 習 到 達 目 標	1. 精神に障害をもつ人と偏見なく関われる。 2. 自分の心の問題と関連させて精神障害を考えられる。 3. 精神の健康な部分と病的部分とを正しく見分けられる。 4. 精神に障害をもつ人個々に必要な看護を科学的説明できる。
関 連 科 目	「精神看護学概論」「精神地域看護学」「心理学」「地域社会学」「解剖学」「疾病の成り立ち」「薬理学」「リハビリテーション概論」「社会福祉・社会保障制度論」「看護カウンセリング」「看護過程論」
成 績 評 価 方 法	定期試験と授業の中で指示した提出課題

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 4	精神保健看護の基本	精神障害者が理解されてきた歴史と精神科看護の変遷について概説する。精神保健福祉法の要旨、看護者に求められる資質、精神障害者とのコミュニケーションの特徴、患者—看護者関係、観察のポイント等について概説する。	目標 3-1 精神医療看護の歴史と人権 A. 精神医療看護の変遷 a: 欧米における精神医療の歴史 b: 日本における精神医療の歴史 C: 精神医療における看護師の役割 B. 患者の権利 a: インフォームド・コンセント b: 行動制限 c: 隔離室の使用 C. リスクマネジメント a. 自殺・自殺企図 b. 転倒 c. 誤飲 d. 誤薬 e. 院内感染	
5 10	精神状態・症状別看護援助	人間の持つ精神機能について概説する。また、精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態をアセスメントし、さまざまな状態像にある看護について概説する。	目標 2-2 看護援助技法 A. 症状アセスメント a. 不安 b. 抑うつ c. 幻覚 d. 妄想 e. 強迫 f. せん妄 g. 痴呆 h. 離脱症状 B. 精神状態・問題行動と看護援助方法 a. 不安緊張状態 b. ひきこもり状態 c. 抑うつ状態 d. 躁状態 e. 幻覚妄想状態 f. 意欲減退状態 g. 不眠状態 h. 拒絶・拒否 i. 攻撃的行動 j. 操作・試し行為 k. 強迫行為	
11 14	精神の健康障害と看護援助 ・統合失調症患者の看護 ・感情障害患者の看護	統合失調症の急性期、慢性期にある患者に対する援助の方法について説明する。統合失調症の精神病理, 発症の背景, 統合失調症の治療 統合失調症のさまざまな状態(幻覚・妄想、無為自閉、拒絶、昏迷など)にある患者に対する援助の方法について説明する。 軽度、重度うつ状態および躁状態にある患者にみられる身体症状(不眠、食欲不振等)および精神症状(抑うつ、不安などの感情障害、昏迷、抑制などの意欲・行動障害等)について事例を通して説明する。躁鬱病の精神病理, 発症因子, 躁鬱病の治療	目標 2-3 精神科治療と看護【必修問題(a. うつ b. 統合失調症)】 A. 精神疾患の診断基準 a. 統合失調症 b. 気分障害 c. 神経症および心因反応 d. 人格障害 e. 物質(アルコール, 薬物)関連障害 f. ストレス関連障害 g. 器質性精神疾患 h てんかん. i. 心身症	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	・神経症性障害患者への看護	神経症性障害の看護援助について事例を通して概説する。		
16	・アルコール依存症の看護	アルコール依存症の看護について概説する。		
17	リエゾン精神科看護	精神的危機が生じる医療・看護の中で精神看護的知識や技術を基盤とした助言を行い、患者—看護者関係を築くためのコンサルタントをするリエゾン精神看護を概説する。家族への支援について概説する。	目標 1-1 精神の健康 D. リエゾン精神看護 a. 身体疾患をもつ患者の精神の健康 b. 患者・家族の精神の健康 c. 看護職者の健康	
18	社会復帰活動と看護	社会復帰活動(作業療法・レクリエーション療法・生活指導・SST)の歴史的変遷および看護活動について説明する。また、精神科デイ・ケアの目的と活動の実際について説明する。 精神の健康上の問題をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて概説する。	目標 3-2 地域精神保健 A. 精神福祉の法制度 a. 精神保健福祉法の基本的考え方 b. 精神保健福祉法による入院の形態 c. 精神保健指定医 d. ホームヘルプサービス B. 社会復帰・社会参加 a: 社会復帰施設 b: デイケア c: 小規模作業所 d: グループホーム e: 生活支援センター f: セルフヘルプグループ C. 地域生活支援の技術 a. 生活技能訓練 SST (Social Skill Training) b. 訪問看護 c. ケアマネジメント d. 看護相談面接 D. 生活の場と精神保健 a. 家庭(育児ノイローゼ, 介護疲れ, 虐待) b. 学校(不登校, いじめ, 無気力) c. 職場(バーンアウト, 自殺, 過労死)	
19				
20	事例展開	事例(精神分裂病、うつ病事例)を用いた看護過程の展開: グループワークと発表により看護診断について学習する。	目標 2-2 看護援助技法 A 症状アセスメント B 精神状態・問題行動と看護援助方法 目標 2-3 精神科治療と看護 A 精神疾患の診断基準 B 臨床検査 C 身体療法 D 精神療法 E 活動療法 F 治療環境	
29	発表・まとめ			
30				

教科書	・「新体系看護学 35 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護」佐藤壹三 (メヂカルフレンド社)
参考書	・「精神障害者のクリニカルケア」川野雅資・長野勝 (メヂカルフレンド社) ・「精神看護学」田中美恵子 (医歯薬出版) ・「ナーシング・グラフィカ 32 精神看護学—情緒発達と看護の基本」出口禎子 (メディカ出版)

授 業 科 目 名	精 神 地 域 看 護 学	単 位 認 定 者	齋 藤 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	精神障害者を地域社会に居住する生活者として捉え、精神障害の予防、精神障害者対策、精神障害者支援等における看護師、保健師の役割、機能等を学習し、技術を習得する。
学 習 到 達 目 標	1. 地域社会における行政機関、医療機関、社会復帰支援機関等の組織、機能等を理解する。 2. 各機関における看護師、保健師等の役割、およびソーシャルワーカー、作業療法士等、他の専門職者との協力のありかたを理解する。 3. 事例を通して知識、技術を確認し、知識および技術を自己自身に定着させる。
関 連 科 目	生命倫理、地域社会学、地域保健行政、保健統計基礎、精神看護学概論、精神臨床看護学、社会福祉・地域サービス論
成 績 評 価 方 法	定期試験、随時提出のレポート評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	地域精神保健の考え方	精神障害者対策の歴史 地域社会における生活者としての精神障害者	2-D 生活の場と精神保健	9-A 精神保健の動向 a) 精神保健の理念、歴史的変遷 9-B 精神障害者の生活上の障害と保健指導 a) 精神障害者の生活の捉え方
3 4	地域保健行政における精神保健の仕組み 精神保健福祉行政の仕組み	精神障害者を支える地域ケアシステム 精神保健福祉法の概要	2-A 精神保健福祉の法制度 2-A 精神保健福祉の法制度 a) 精神保健福祉法の基本的な考え方	b) 発症に関与する疾病の発生過程、予防、他 9-A b) 精神保健施策と保健師活動、c) 地域・集団の精神保健、優先順位、他 9-B 社会復帰へのはたらきかけ、精神保健活動 9-B c)
5 6	社会復帰支援	社会復帰支援の法的位置づけとそのための施策と事業内容	2-B 社会復帰・社会参加 a) 社会復帰施設 b) デイケア c) 小規模作業所 d) グループホーム e) 生活支援センター f) セルフケアグループ	d) 地域のサポートシステム、社会復帰
7 8	市町村における地域精神保健福祉活動の実際	市町村保健師による指導の実態	2-D 生活の場と精神保健 a) 家庭 c) 職場	9-C a) 薬物乱用 b) アルコール依存
9 10 11 12	保健所における地域性 精神保健福祉活動の実際 看護技術	保健所保健師による指導の実際 ケアマネジメント	2-D a) 家庭 b) 学校 2-A d) ホームヘルプサービス 2-C b) 訪問看護 c) ケアマネジメント d) 看護相談面接	9-C c) 自殺 d) 家庭内暴力 e) いじめ 9-A a) 9-B c)
13 14 15	事例研究 まとめ	看護診断、看護計画作成、面接および訪問看護の実際 精神地域看護学において必要な知識と技術のまとめ	2-C b) c) d)	9-A a) 9-B c)

教 科 書	「新体系看護学第 34 巻 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健」佐藤壹三（メヂカルフレンド社）
参 考 書	「我が国の精神保健福祉」精神保健福祉研究会監修（株式会社太陽美術発行）

授 業 科 目 名	看 護 カ ウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	齋 藤 和 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	患者の多様化が進む中で、看護の基本である患者・家族との関わりについて学ぶ。カウンセリングの技術を看護に適用する。看護カウンセリングの役割を理解するとともに、基本的な面接技法や心理アセスメントについて学習し、臨床場面で実践できることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1. 患者・家族との関わりについて理解できる。 2. 看護カウンセリングの理論・方法・役割を理解できる。 3. 基本的な面接技法や心理アセスメントを臨床場面で活用できる。
関 連 科 目	心理学 精神看護学概論 精神地域看護学 精神臨床看護学 発達心理学 老年心理学 カウンセリング 他
成 績 評 価 方 法	出席状況、レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	看護カウンセリングとは、看護カウンセリングの方法	対象への看護援助過程の中でカウンセリングの行為は看護機能のなかに統合され、臨床の場面でいつでも展開されている。カウンセリングの理論やその考え方、態度、技術を実践の場で活かせるよう学習する。		
2				
3	・対象者とのかかわりを振り返る	自己の考え方、感情の持ち方、行動など自分自身の内面と向き合うとともに、病む人のおかれている状況について考えられる技術を学習する。		
4	・自己理解、言語的・非言語的コミュニケーション	コミュニケーション理解のために、自己理解、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、会話の実際、人間の理解について学習する。		
5	・積極的傾聴、傾聴とフィードバック			
6	事例検討・ロールプレイ	事例をとおしてカウンセリングのプロセスを学習する。		
7	ピアカウンセリング実習	対話の記録と分析を行う体験学習をとおして、自己理解、他者理解、コミュニケーションについて理解を深める。		
8	まとめ			

教 科 書	特になし
参 考 書	「ケアの質を高める看護カウンセリング」飯田澄美子・見藤隆子編著（医歯薬出版）

授業科目名	地域看護活動論Ⅰ	単位認定者	小林 亜由美
対象学年	第 2 学年	学期	前期
単位数	2 単位 (3 0 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、家庭訪問、健康教育、地区組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識・技術を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。
学習到達目標	1. 健康相談の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた健康相談を展開できる。 2. 家族保健指導の意義と目的、及び支援技術としての家庭訪問の特質を理解し、家庭訪問のプロセスを展開できる。また、家庭訪問を他の保健事業や施策に反映させる意義と方法がわかる。 3. 健康教育の概念と理論を理解し、個人及び集団を対象とした健康教育を展開できる。 4. 地区組織活動支援の意義、地区組織活動支援に活用される理論、地区組織活動支援の方法がわかる。
関連科目	地域看護学概論、地域看護活動論Ⅱ、地域看護活動論Ⅲ
成績評価方法	試験、演習内容、レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	健康相談 1	健康相談の意義と目的	基礎看護学 目標 2-1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立し発展させるための技術 a) コミュニケーション技術 b) カウンセリング技術 B. 人間の成長を促すための技術 a) 教育 b) 相談・指導 社会保障制度と生活者の健康 目標 1-1. 生活基盤 A. 生活単位 a) 家族(世帯) c) 家族周期(ライフサイクル) B. 家族生活の基本機能 a) 生産・労働 b) 教育・養育 c) 保健・福祉 d) 生殖 e) 慰安・交流	地域看護学Ⅱ 1. 発達段階、健康レベルと保健サービス A. 保健サービス a) 各発達段階における健康レベル別個人・家族及び小集団の健康課題と必要な接近技法・技術 b) 各発達段階における健康レベル別個人・家族に必要な保健サービス B. 各種サービスの活用 a) 各発達段階における健康レベル別各種保健サービスの特性・活用 b) 地域の健康特性と各種保健サービスの適用・優先順位 4. 健康相談 A. 健康相談・健康診査の目的と対象、技術 a) 目的、特性 b) 対象、種類と特性、スクリーニング基準、精度管理 c) 相談・健康診査場面の設営・面接技術 B. すすめ方 a) 地域の健康特性と健康相談・健康診査事業の立案 b) 参加対象と参加勧奨 c) 実施準備・実践・評価 d) 事後フォローアップ e) 参加対象への自立支援・組織化 3. 家庭訪問 A. 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 b) 家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評価 地域看護学Ⅰ 4. 地域の人々の保健関連行動 A. 個人の対処行動 a) セルフケア行動 b) ウェルネス行動 c) 学習行動 d) 支援行動 e) 求援行動 f) 病気への対処行動 g) 受療行動 h) 遵守行動 地域看護学Ⅱ 3. 家庭訪問 B. 家庭訪問の目的と対象、技術 a) 目的、特性 b) 対象特性 c) 初回・継続・拒否等への訪問技術 C. すすめ方 a) 情報収集と問題把握 b) 対象選定と優
2	健康相談 2	健康相談の対象		
3	健康相談 3	健康相談の技術		
4	健康相談 4	健康相談の実施方法		
5	健康相談 5	健康相談の実施方法(演習)		
6	健康相談 6	〃		
7	家族保健指導 1	家族の発達課題、家族の持つ保健機能		
8	家族保健指導 2	家族の問題把握と診断、家族支援		
9	家庭訪問 1	家庭訪問の意義と目的、家庭訪問の対象		
10	家庭訪問 2	家庭訪問計画の作成、訪問準備、訪問目的の伝え方		
11	家庭訪問 3	家庭訪問における観察・情報収集、看護技術援助、保健指導		
12	家庭訪問 4	家庭訪問の事後処理、訪問記録の意義と作成方法		
13	家庭訪問 5	家庭訪問場面(演習)		
14	家庭訪問 6	〃		
15	家庭訪問 7	家庭訪問場面(演習)		
16	家庭訪問 8	〃		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
17	健康診査 1	健康診査の意義、地域で行われる各種健康診査の目的・対象・方法	基礎看護技術 目標 2-1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立し発展させるための技術 c) グループワーク、グループダイナミクス B. 人間の成長を促すための技術 a) 教育 b) 相談・指導	先順位 c) 訪問指導計画、訪問準備・実践・評価 e) 関係機関・職種との連携、社会資源の活用 d) 訪問記録、報告 2. 保健指導 A. 目的と各接近技法・技術の特色 a) 個別・集団の接近技法の各目的・特性 b) 個別・集団指導の種類・特色 B. 保健指導における役割 a) 個別・集団指導と援助者の基本姿勢 b) 対象選定と優先順位 4. 健康相談 A. 健康相談・健康診査の目的と対象、技術 a) 目的、特性 b) 対象、種類と特性、スクリーニング基準、精度管理 c) 相談・健康診査場面の設営・面接技術 B. すすめ方 a) 地域の健康特性と健康相談・健康診査事業の立案 b) 参加対象と参加勧奨 c) 実施準備・実践・評価 d) 事後フォローアップ e) 参加対象への自立支援・組織化 5. 健康教育 A. 目的と対象、技術 a) 健康教育の目的、特性 b) 対象、種類と特性 c) 健康教育に用いる基礎理論 B. すすめ方 a) 地域のニーズ把握・アセスメント、事業の立案 b) 参加対象と参加勧奨 c) 指導案づくり・媒体の工夫 d) 実施準備・実践評価 e) 事後フォローアップ f) 参加対象への自立支援・組織化 地域看護学Ⅲ 5. グループ支援、組織化 A. グループの役割・機能 a) グループの種類と機能 b) グループの発展過程 c) グループダイナミクスの理論 d) グループ支援における保健師の役割 B. グループメンバー個々人の変化とグループ全体の変化 a) 主体性の確立 b) 自己洞察の深まり c) エンパワメント C. グループの育成支援と組織化 a) グループの育成と組織化支援 b) セルフヘルプグループの特徴と支援方法 c) 健康学習を促進する媒体、人的つながり D. 住民組織・地区組織 a) 組織の育成・支援 b) 地域住民の自助、互助および共同活動の把握と推進 c) 専門職、行政職、他の住民組織等との連携 E. グループ支援と地域活動への発展・貢献 a) グループ間での情報共有とネットワーク b) 共同事業・共同活動の発展と支援 c) 民間、NPO 支援 保健医療福祉行政論 3. 地域保健福祉行政と保健師活動 E. 地域単位の保健師活動と連携 a) 保健医療福祉の連携と提供 b) 地域ケアコーディネーションと地域支援 c) 組織育成と地域内関係機関の組織化
18	健康診査 2	健康診査事業の展開方法と保健師の役割		
19	健康教育 1	健康教育の理念と目的、健康教育の理論		
20	健康教育 2	健康教育の対象・方法		
21	健康教育 3	健康教育の展開過程		
22	健康教育 4	〃		
23	健康教育 5	健康教育計画と指導案		
24	健康教育 6	〃		
25	健康教育 7	健康教育の評価		
26	健康教育 8	〃		
27	地区組織活動支援 1	地区組織活動の意義と目的		
28	地区組織活動支援 2	地域住民の自助と互助、地区組織・専門職・自治体の連携、社会資源の活用		
29	地区組織活動支援 3	地区組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方		
30	地区組織活動支援 4	〃		

教科書	「最新保健学講座 3 地域看護支援技術」村嶋幸代編（メヂカルフレンド社）
参考書	

授業科目名	地域看護活動論Ⅱ	単位認定者	矢島正栄
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	地域で生活する人々を捉える視点を教授し、人々の主体性を尊重した援助の基本姿勢を育成する。また、地域及び集団を単位とした健康問題の探求と、問題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を教授する。さらに、保健計画の策定・遂行・評価、及び施策化に関わる看護専門職の役割、地域看護管理について理解を深める。
学習到達目標	1. 地域の特性と、そこで生活する人々の様子や健康・生活上のニーズを捉えることができる。 2. 地域で生活する人々の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢がわかる。 3. 地域及び集団の健康管理の考え方と方法がわかる。 4. 地域の関係機関、関係職種との連携の必要性とその方法がわかる。 5. 保健計画の意義、策定・遂行・評価のプロセスと看護専門職の役割がわかる。
関連科目	地域看護学概論、地域看護活動論Ⅰ、地域看護活動論Ⅲ
成績評価方法	試験、演習内容、レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	地域保健活動の対象のとらえ方1	地域保健活動の対象、地域の健康問題の捉え方、健康問題の構造		地域看護学Ⅰ 3. 社会環境の変化と健康課題 A. 社会情勢の変遷 a) 人口構成の変化 b) 疾病構造の変化 c) 科学技術の発展 d) 経済・産業構造の変化 e) 地域社会の構造の変化 f) グローバリゼーション C. 健康に影響する生活環境要因 a) 文化・価値観の多様化 b) 生活構造 c) 家族形態 d) 労働形態 e) 生活環境(公害・環境汚染) f) 社会病理 4. 地域の人々の保健関連行動 A. 個人の健康課題への対処行動 a) セルフケア行動 b) ウェルネス行動 c) 学習行動 d) 支援〈ヘルピング〉行動 e) 求援行動 f) 病気への対処行動 g) 受療行動 h) 遵守行動 B. 組織としての健康課題への対処 a) 健康課題に対する組織の理念 b) 健康課題への対処行動
2	地域保健活動の対象のとらえ方2	現代日本人の生活と健康問題		
3	地域保健活動の対象のとらえ方3	対象の健康課題への対処行動		
4	地域保健活動の展開 1 地区把握	地区把握・問題発見の考え方と方法		
5	地域保健活動の展開 1 地区把握	〃		
6	地域保健活動の展開 2 地区診断	地区診断の目的と方法		地域看護学Ⅲ 1. 地域診断と情報収集 A) 地域特性、地域集団の特性の把握 a) 地区診断の概念、アセスメントの方法 b) 日常的な保健師活動からの潜在・顕在ニーズの把握と分析 c) 住民ニーズの把握と住民の意見聴取 d) 既存の統計資料の分析と解釈 e) 社会資源・関係機関の把握と分析 f) 実態調査 2. 活動・事業計画と保健師の役割 A. 活動目標・事業計画の策定
7	地域保健活動の展開 3 活動方針・活動目標の設定	活動方針・活動目標の考え方と盛り込むべき内容、優先順位の考え方		
8	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	地域保健活動計画立案のプロセス		
9	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	必要量-稼働量の算定、予算化、地域保健活動計画と住民参加		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
10	地域保健活動の展開 5 活動計画の実践 と評価	地域保健活動のモニタリングと計画の修正、地域保健活動の評価の目的と考え方		a) 情報分析と健康課題の提示 b) 解決すべき健康問題の特定、優先順位の決定 c) 目的・目標の明確化と合意形成 d) 計画の根拠の明確化 e) 活動内容・方法の選定と手順 f) 保健師活動の必要量と稼働量 g) マンパワー・予算の確保
11	地域保健活動の展開 5 活動計画の実践 と評価	地域保健活動の評価に用いる指標と評価方法		B. 計画の推進(進行管理、計画調整) a) 関係者との連絡・調整 b) 事業の運営、モニタリング c) 計画変更などの調整 C. 計画の見直し、評価
12	保健計画と保健師の活動 1	保健計画とは		a) 計画の達成状況の確認 b) 評価(目標、計画・企画、運営のプロセスの評価) c) 事業の効果測定(コストベネフィットを含む) d) 次年度への反映
13	保健計画と保健師の活動 2	保健計画の構成、保健計画の策定過程、保健計画を実現させるための条件・方法、保健計画の評価		3. 自治体(保健所・市町村)における計画策定・施策化と予算のしくみ A. 保健福祉対策と事業計画・評価 a) 公共政策と保健計画 b) 都道府県および市町村の基本的な計画の位置づけ c) 法制度や条例に基づく保健計画の策定 d) 新たな健康課題を解決する事業計画の策定 e) 計画策定への住民参加の促進 f) 保健政策と医療・福祉・教育・労働・産業等の政策との連携 g) 評価(健康課題と達成状況の提示)
14	保健計画と保健師の活動 3	保健計画の策定・推進・評価における保健師の役割 施策化の考え方と保健師の役割		B. 予算のしくみ a) 予算(活動の財政的計画) b) 予算編成と執行
15	地域看護管理 1	管理の基本 組織		4. 地域看護管理 A. 地域看護管理のしくみ a) 地域における保健活動・在宅ケアの方向づけ b) サービスの提供体制の整備、指導・監視 c) コミュニティの健康水準の向上への提言 d) 職員と住民の権利保障 e) 職業倫理
16	地域看護管理 2	人事管理、業務管理、予算管理、情報管理 危機管理(リスクマネジメント)		B. 情報管理 a) 関連情報の収集、情報ネットワークの構築 b) 情報管理の方法 c) 情報開示、マスコミ対応 d) 個人情報の保護 C. 地域ケアの質と保証 a) サービス提供組織の診断 b) 地域における看護の継続性、総合性の推進 c) 他職種・他機関との事例検討 d) 地域の特性をいかした社会資源の開発と管理 D. 組織運営・管理 a) 組織目的、各部門の役割、指示系統の確認 b) 業務管理 c) 他部門との連携、情報の共有、協働 E. 人材育成 a) 人材育成方針の策定(組織内) b) 現任訓練、教育研修の計画と評価 F. 予算管理 a) 保健事業と人材育成の予算編成 b) 目的、効率・効果、代替案の明確化 c) 主務者、財務部門、議会への説明
17 ～ 28	〈演習〉 地区診断と地域保健 活動計画作成演習	1. 目的 地域住民のヘルスニーズの把握方法と、ヘルスニーズに対応させた地域保健活動の展開方法を理解する。 2. 方法 1) 対象地域: 高山村 2) 内容: 対象地域の地区把握・地区診断・健康問題の分析・地域保健活動計画の作成・地域保健活動評価計画の作成 3) 実施方法: グループ毎に母子、成人等の1領域を担当する。		
29 30	〈発表会〉 地域保健活動計画報告・検討会	各グループが作成した地区活動計画を発表し、内容について全体討議を行う。 助言者: 高山村保健師		

教科書	「最新保健学講座5 地域看護管理論」平野かよ子編集(メヂカルフレンド社)
参考書	「国民衛生の動向2007」(財団法人厚生統計協会)

授 業 科 目 名	地 域 看 護 活 動 論 III	単 位 認 定 者	小 林 亜 由 美
対 象 学 年	第 2 学 年 第 3 学 年	学 期	後 期 前 期
単 位 数	3 単 位 (4 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 (オムニバス方式)
科 目 の 目 的	ライフステージや健康障害など個人と、産業、学校など場の特性に応じた地域看護活動について、その理念と特質を学び、実践の基礎となる知識を習得する。
学 習 到 達 目 標	(母子保健) 1. 母子保健活動の理念と目的が理解できる。2. 母子が抱える問題と支援の展開方法が理解できる。3. 我が国の母子保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が理解できる。 (成人高齢者保健) 1. 生活習慣病、感染症、難病、障害者 (児) に関する保健活動の理念と目的が理解できる。2. 対象者が抱える問題と支援の展開方法がわかる。3. 同領域における我が国の保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が理解できる。 (学校保健) 1. 養護教諭の職務に関して、その機能と役割を理解し養護教諭に求められる資質、能力を習得する。 (産業保健) 1. 事業場内の労働衛生管理体制のもとに行われている、産業保健活動 (健康管理・作業管理・作業環境管理) を理解する。2. 今日における労働者の健康問題の現状と動向を知る。3. 職場における健康問題を解決するため、個別的・集団的・組織的展開方法を知る。
関 連 科 目	地域看護学概論 地域看護活動論 I 地域看護活動論 II 在宅看護活動論 保健指導論 公衆衛生学 成人・老年看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論 精神地域看護学
成 績 評 価 方 法	筆記試験 (母子保健) (成人高齢者保健) (学校保健) (産業保健) の領域毎に各々評価した上で、それらを総合的に評価したものを本科目の成績とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	(母子保健) 母子保健の理念 母子保健の現状1	母子保健の理念と目的、歴史的変遷、わが国の母子保健の水準我が国の母子保健活動の概要		地域看護学II 6-A-a) 母子保健の理念、歴史的変遷
2	母子保健の現状2	すこやか親子 21、ライフサイクルから見た母子保健、母子の健康に影響を与える要因		b) 母子保健施策と保健師活動、健やか親子 2 1
3	若い家族の健康生活と保健指導の基本	若い家族、妊娠・分娩・産褥期の健康生活と保健指導、遺伝相談		A-c) 地域・集団の母子健康問題、優先順位
4	妊産褥婦の健康生活と保健指導の基本	妊産褥婦を対象とする保健サービス、勤労女性の母性保護		C-e) 家族計画 C-b) 妊産褥期 D-b) 就労女性
5	乳幼児期の健康生活と保健指導の基本1	乳児期の成長発達・健康・生活と保健指導、乳児期を対象とする保健サービス		C-c) 育児期
6	乳幼児期の健康生活と保健指導の基本2	乳児期の成長発達・健康・生活と保健指導、乳児期を対象とする保健サービス		B-a) 乳幼児の発達、生活・しつけ、保健指導 b) 乳幼児期の健康問題アセスメント、保健指導 c) 予防接種
7	乳幼児期の健康生活と保健指導の基本3	幼児期の成長発達・健康・生活と保健指導、幼児期を対象とする保健サービス		C-a) 思春期
8	乳幼児期の健康生活と保健指導の基本4	乳幼児健康診査の実際と保健師の役割		D-a) 心身障害児 c) こどもの虐待、女性への暴力 d) 外国人母子の健康問題と支援 e) 地域のサポートシステム、社会資源
9	学童期の健康生活と保健指導の基本	学童期・思春期の成長発達・健康・生活と保健指導 (性教育については職域保健活動論で扱う)		C-d) 更年期
10	ハイリスク母子の保健指導1	未熟児、多胎、発達障害児、小児慢性特定疾患患児の保健指導		7-A-a) 成人保健の理念、歴史的変遷 b) 成人保健施策と保健師活動、健康日本 21c) 地域・集団の成人期健康問題と優先順位
11	ハイリスク母子の保健指導2	育児環境や育児方法に問題がある母子・ハイリスクな母親の保健指導		
12	更年期の健康生活と保健指導の基本	更年期の保健指導、働く女性の母性保護		
13	(成人・高齢者保健) 成人高齢者保健の現状と施策1.	我が国の成人高齢者保健の理念、目的、活動の概要		B-a) 成人各期の特徴、健康問題アセスメント、保健指導 b) おもな疾病 c) 疾病、健康課

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14	成人高齢者保健の現状と施策 2	生活習慣病対策、健康増進対策		<p>題と地域のサポートシステム、社会資源</p> <p>8-A-a) 高齢者保健の理念 歴史的変遷 b) 高齢者保健施策と保健師活動 c) 地域・集団の高齢者健康問題と優先順位</p> <p>B-a) 高齢者の特徴、健康問題アセスメント、保健指導</p> <p>地域看護学</p> <p>13. 歯科保健指導</p> <p>A. 歯科保健の動向</p> <p>a) 歯科保健統計 b) 歯科保健施策、8020 運動</p> <p>B. 生涯を通じた歯科保健</p> <p>a) 各発達段階における健康レベル別歯科保健サービス</p> <p>b) 障害者(児)、難病等の歯科保健サービス</p> <p>C. 歯科保健に関連する歯科疾患</p> <p>a) う蝕 b) 歯周疾患 c) 口腔機能低下 d) 誤嚥性肺炎</p> <p>12-A-a) 感染症保健活動の理念、歴史的変遷 b) 感染症に関する保健統計</p> <p>B-a) 疫学、病態、臨床 b) 感染症予防活動、保健師の役割</p> <p>C-a) 感染症発生時の保健師活動、保健師の役割 b) 感染症集団発生と保健師活動</p> <p>D-a) 感染症の予防及び感染症の患者に対する法律、食中毒 b) 結核 c) HIV 感染症 / AIDS、性感染症 d) 新興・再興感染症 e) 肝炎 f) 腸管出血性大腸菌感染症</p> <p>11-A-a) 難病保健の理念、歴史的変遷 b) 難病保健師策と保健師活動 c) 地域の難病者の健康問題、優先順位 B-a) 難病患者と家族の特徴、健康問題アセスメント、保健指導 b) 在宅療養難病患者と家族への保健指導 c) 地域のサポートシステム、社会資源</p> <p>10-A-a) 障害者(児) 保健の理念、歴史的変遷 b) 障害者(児) 保健施策と保健師活動 c) 地域・集団の障害者(児) の健康問題、優先順位 B-a) 障害者(児) のとらえ方、健康問題アセスメント、保健指導 b) 障害者(児) と家族への保健指導 c) 障害の予防、自立支援 d) 住環境、地域環境整備 e) 社会参加、人権擁護</p> <p>1-A-a) 学校保健・看護の定義 b) 養護教諭の役割・機能 B-a) 学校看護職の誕生、社会背景 b) 戦後の学校保健、養護教諭の活動 c) 学校保健・看護活動の実態</p> <p>C-a) 学校保健に関する法体系 b) 学校保健組織と人材 c) 保健室の機能、保健室運営 d) 安全管理、危機管理 e) 学校給食</p> <p>E-a) 学校保健計画</p> <p>F-a) 環境調整の意義 b) 環境管理 c) 環境教育 d) 地域保健、産業保健との連携</p>
15	成人高齢者保健の現状と施策 3	メタボリックシンドローム対策		
16	成人高齢者保健の現状と施策 4	特定健康診査と特定保健指導		
17	成人高齢者保健の現状と施策 5	介護予防対策: 地域支援事業、地域包括支援センターにおける活動		
18	成人高齢者保健の現状と施策 6	介護予防対策: 特定高齢者施策、一般高齢者施策		
19	成人高齢者保健指導 1	食事指導の実際		
20	成人高齢者保健指導 2	運動指導の実際		
21	成人高齢者保健指導 3	保健指導の実際(脂質異常症・高血圧)		
22	成人高齢者保健指導 4	保健指導の実際(糖尿病)		
23	成人高齢者保健指導 5	口腔・歯科保健指導		
24	感染症保健活動 1	わが国の感染症対策の動向		
25	感染症保健活動 2	麻疹・インフルエンザ対策と保健活動		
26	感染症保健活動 3	食中毒対策と保健活動(腸管出血性大腸炎、ノロウイルス等)		
27	感染症保健活動 4	HIV 感染症/エイズ対策と保健指導、性感染症対策		
28	感染症保健活動 5	結核対策		
29	感染症保健活動 6	結核の保健活動		
30	難病保健活動	難病対策と保健活動		
31	障害者(児) 保健活動	障害者(児) 対策と保健活動		
32	(学校保健) 養護教諭の職務	養護教諭制度の沿革、養護教諭の職務内容の変遷、学校教育における養護教諭の役割		
33	学校保健(1)	学校保健法、学校保健の領域、学校保健のしくみ		
34	学校保健(2)	学校保健情報と健康実態の把握、学校保健目標と学校保健計画 学校保健組織活動		
35	養護教諭の職務の実際(1)	保健室の機能と運営 学校環境衛生活動		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
36	養護教諭の職務の実 際(2)	健康診断		E-b) 健康診断と事後措置
37	養護教諭の職務の実 際(3)	健康相談、疾病の予防と管理 健康観察 救急処置と救急体制		d) 感染症の予防・対策 E-e) 個別援助
38	養護教諭の職務の実 際(4)	健康相談活動		D-a) 発達段階別健康課題 b) 不登校 c) 障害児 d) いじめ
39	養護教諭の職務の実 際(5)	保健教育活動		E-c) 健康教育
40	(産業保健)	産業保健・看護の定義、産業看護職の機能		A-a) 産業保健・看護の変 遷、社会背景 b) 産業保 健・看護活動の実態
41	産業保健・看護の理 念と目的 産業保健・看護の歴 史と現状 産業保健・看護の制 度とシステム	産業保健・看護に関連する健康問題や支援の歴史的経 緯と今日のヘルスニーズ 労働安全衛生に関する法体系 産業保健組織とスタッフの役割 健康支援を行う関連機関		C-a) 労働安全衛生に関す る法体系 b) 産業保健組織 と人材 c) 産業保健・看護と 社会資源
42	産業保健・看護にお ける主な健康課題と 対策	職業性疾病の種類と予防対策 作業関連疾患の種類と予防対策 職場のメンタルヘルスケア・ストレス対策 職場の安全管理		D-a) 職業性疾患の種類、予 防対策 b) 作業関連疾患の 種類、予防対策 c) 職場のメ ンタルヘルスケア、ストレス対策 d) 職場の安全管理
44	産業保健・看護の役 割・特徴と活動の展 開	産業看護職の役割 産業保健計画と評価 個別的・集团的・組織的展開方法		E-a) 保健師の職務 b) 産業 保健計画と評価 c) 個別 的・集团的・組織的展開方 法 d) 地域保健との連携

教科書	(母子保健・成人高齢者保健) ・最新保健学講座 4. 地域看護活動論①ライフステージの特性と保健活動 (メジカルフレンド社) ・最新保健学講座 5. 地域看護活動論②心身の健康問題と保健活動 (メジカルフレンド社) ・国民衛生の動向 2008 ・保健指導用パンフレット各種 (¥100/1冊程度) (学校保健) 新版・養護教諭執務のてびき 第4版 (東山書房) (産業保健) 最新保健学講座 4. 地域看護活動論①、ライフステージの特性と保健活動 (メジカルフレンド社)
参考書	・国民の福祉の動向 2008

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 活 動 論	単 位 認 定 者	大 野 絢 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習
科 目 の 目 的	在宅療養者を支える社会資源とそれらを有効に機能させるための方法を理解する。また、在宅看護と生活援助に必要な知識と基本技術を習得すると共に、家族への看護技術指導を実施できることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1. 在宅看護の現状・課題と活動の方向性が理解できる。2. 在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。3. 基本的な生活援助の技術を習得する。4. 特種な処置・管理を要する在宅患者の援助に必要な知識と技術を習得する。5. 家族への看護技術指導に必要な知識と看護技術を身につける。
関 連 科 目	歯科保健、看護ケア方法論、成人看護学ⅠⅡ、老年看護学ⅠⅡ、小児看護学ⅠⅡ、地域看護学概論、地域看護活動論ⅠⅡⅢ
成 績 評 価 方 法	筆記試験、レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4	在宅看護の特徴 在宅看護の展開	在宅における看護活動 関係職種と社会資源 在宅療養者の権利保障 地域におけるケア提供機関 継続療養における在宅看護 在宅看護への接続・連携／専門職者との連携 在宅看護成立の条件 退院計画と継続看護【退院指導と退院計画、プランの共有、家族・患者の意思、退院計画実践方法】	目標 1-3-A 生活の自立支援 目標 2-2-A 在宅医療と社会制度 目標 1-3-E チームケアの重要性 目標 1-3-F ケアマネジメントと看護の役割 目標 1-3-D 家族介護者の理解と健康支援 目標 1-3-C 生活の中で起こる問題の予測と予防 目標 2-2-B 薬物療法 目標 2-2-C 在宅酸素療法 目標 2-2-D 在宅人工呼吸療法 目標 2-3-C 難病による療養者 目標 2-1-B 排泄 目標 2-2-E 膀胱留置カテーテル法 目標 2-2-H 在宅褥創管理 目標 2-1 在宅における生活支援の方法と技術-A 食 目標 2-2-F 在宅経管栄養・経腸栄養法 2-2-G 在宅中心静脈栄養法 目標 2-3-E 生活自立困難者 目標 2-3-B 認知症高齢者 目標 2-3-A 寝たきり者 目標 2-3-D ターミナル期の療養者 目標 1-3-B 病状・病態の変化の予測と予防 目標 2-1-C 清潔 目標 2-1-D 移動	3-C-a) 関係する法体系 b) 組織と人材 E-a) 訪問看護ステーション管理 b) 地域ケアシステムづくり c) 在宅看護の質評価・管理 C-c) 社会資源 D-c) 介護の人的資源確保・開発 e) 在宅ケアのサービス活用・法的根拠
5 6	在宅療養者と家族看護	在宅療養者と家族看護の特徴（理論と実際） 【家族の機能】【看護学における家族】		
7 8	在宅療養者の日常生活援助	脳血管病患者、認知症者の支援、難病患者の在宅看護 ねたきり者の支援・在宅におけるターミナルケア		
9 10	在宅療養者と家族支援1 在宅療養者と家族支援2	在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、吸引・気管切開のケア		
11 12	在宅療養者と家族支援3 在宅療養者と家族支援4	経管栄養、在宅中心静脈栄養		
13 14	在宅療養者と家族支援5 在宅療養者と家族支援6	CAPD療法、ストーマケア、褥瘡ケア 膀胱留置カテーテル管理		
15 16	在宅療養者と家族支援7 在宅療養者と家族支援8	がん患者の痛みの治療法、事故防止（転倒防止、環境整備、窒息防止、熱傷防止）、感染対策、服薬管理		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
17 18 19 30	在宅療養者と家族支援 9 在宅療養者と家族支援 10 在宅看護技術 1-8 在宅看護過程の展開 1-4	演習オリエンテーション 在宅看護の看護過程の特徴 <演習内容> 在宅看護における看護診断 在宅看護過程の展開 訪問看護計画の作成 在宅看護の展開 演習報告会	グループ毎に、演習およびグループワークを行う。 詳細は、演習時に説明する。	

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「在宅看護論 実践をこばにー第5版」杉本正子・眞船択子(ヌーベルヒロカワ) ・最新保健学講座 5.地域看護活動論 心身の健康問題と保健活動(メジカルフレンド社) ・国民衛生の動向 2008 ・在宅看護・介護技術テキスト/指導用リーフレット/講義用指導案(上武大学出版会) ・介護保険制度に関するパンフレット(1冊 100円程度) ・訪問看護サービス(日本訪問看護振興財団)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立支援のための患者ケア技術」初山泰弘・潮見泰蔵・斎藤昭彦(医学書院)

授業科目名	災害看護	単位認定者	矢嶋和江
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、グループ学習
科目の目的	災害の種類や経時的医療ニーズの変化について理解し、保健医療職として適切な救護活動に参加できる基礎的な知識を学ぶことを目的とする。
学習到達目標	1. 災害の定義及び災害看護の定義・目的について理解できる 2. 災害サイクルと発災後の援助ニーズの経時的变化が理解できる 3. トリアージとタッキングが理解でき、適切な応急処置ができる 4. 災害時被災者の保健問題が理解できる 5. 被災者と援助者のための心のケア対策が理解できる 6. 病院施設の災害対策の必要性が理解できる 7. 災害救援ボランティアの役割が理解できる
関連科目	教養科目群：心理学、地域社会学 専門基礎科目群：カウンセリング、公衆衛生学、救急看護、専門科目群：卒研以外のすべての科目
成績評価方法	ペーパーテスト、課題レポートの提出（出席率も反映する）

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	災害とは	1. 災害とは 2. 災害サイクルと災害対策 3. 災害による援助ニーズの経時的变化	基礎看護学：目標2 3-E トリアージ	地域看護学 4.災害看護
2	災害医療・看護	1. 災害時、保健医療職に求められる役割 2. 災害時の経時的対応と求められる医療・看護およびリーダーシップ		A:災害の定義と災害看護の目的 a)災害の定義・分類, 災害看護の目的 b)、自然災害サイクルと災害医療・看護
3 4	災害時の行動	1. トリアージとは レスキュー(救出)とタッキング(負傷者分類)の原則 ※ペーパーシュミレーション 2. 応急処置法 演習：三角巾による固定法 搬送法		B:災害看護の制度とシステム a) 災害に関する法体系、 b) 災害支援の制度とシステム、 c) 災害支援に関する社会資源
5 6	災害事例検討	最近の災害事例検討から 被災者の置かれた現状や保健医療職の活動などを調べ、被災者支援のあり方や災害被害軽減にむけた対策などについて検討し発表する。		C:災害予防対策と保健師活動 a) 避難のための支援必要者・実態把握、 b) 災害防止マニュアル、災害訓練、 c) 教育普及啓発(住民主体の防災対策への習慣づけ)、 d) 装備、救援・支援ネットワーク構築、
7	国・地域における災害対策	1. 災害支援に関する法制度やシステムの変遷 2. 行政における災害対策と防災マニュアル 災害時の保健所の機能など 3. 防災啓発活動の推進と地域防災力の強化		D:災害応急対策と保健師活動 a) 初動体制、 b) 救護班・避難所での活動 c) トリアージ(定義・原則・プロトコル)、
8 9	災害時の保健問題と保健計画	1. 災害被災者の健康問題について ・避難形態による保健問題 (自宅・公立避難所、仮設など) ・家族形態による保健問題 2. 避難センターにおける支援と保健活動 初期計画と保健プログラム 3. 在宅療養者に対する支援と保健活動 4. 仮設住宅生活者に対する支援と保健活動 5. 災害時に支援優先度の高い人への看護(高齢者、		E:災害復旧・復興対策期と保健師活動 a) 避難所・仮設住宅・在宅生活者への活動、 b) PTSDへの対応、 c) 職員の心身の健康管理 d) ボランティアへの活動支援

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
10	被災者と援助者のための体と心のケア	妊産婦・乳幼児、病人・外国人など）に対する支援と保健活動 1. ASDとPTSDの症状とその予防、対策 2. 救援者のストレス対策		
11	病院施設の災害管理	1. 病院の災害被害軽減対策について 2. 災害対応マニュアルと防災訓練 3. 災害発生時の入院患者管理 4. 多死傷者受け入れのための準備 5. 被災施設職員の健康管理と災害支援ボランティアの受入れとその配置		
12	D I Gの演習	1. 地域及び職場の避難誘導を考えた訓練 D I Gのペーパーシミュレーション		
13	災害救援ボランティア	1. 災害救援ボランティアの役割 2. 被災地における援助の特徴 被災地の地理的、文化的背景や人口動態などを考慮した支援ニーズについて概説 都市型災害、地方型災害など 3. ボランティアとしての心構えと留意点 4. ボランティア参加時の準備		
14	救援ボランティアのシミュレーション演習	仮想地震被害地への救援活動 救援ボランティアのシミュレーション GW と結果発表		
15	まとめ			

教科書	特になし
参考書	「災害時のヘルスプロモーション」(荘道社) 「災害医療ガイドブック」(医学書院) 「看護師・介護師のための災害救護ハンドブック」 「災害とトラウマ」心のケアセンター編集(みすず書房) 「阪神淡路大震災ーその時看護は一」(日本看護協会出版会) 「災害と日本人」(時事通信社) 「ナースのためのトリアージハンドブック」(医学書院) 「人はなぜ逃げおれるのか」集英社新書 「災害対策基本法」防災行政研究会編集(ぎょうせい)

授 業 科 目 名	保 健 指 導 論	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	学生が自ら健康教育を企画・運営・評価することをおして、地域の人々を対象とする集団教育の展開方法と、教育的働きかけの方法を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1. 集団教育の計画・実施・評価の一連の過程を実施できる。 2. 対象が健康を保持増進させる行動をとれるよう援助する方法がわかる。
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護活動論Ⅰ、地域看護活動論Ⅱ、地域看護活動論Ⅲ
成 績 評 価 方 法	演習内容、レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4 5 6 7 8	オリエンテーション 演習 健康教育実施 評価	<p>1. 学習課題</p> <p>1) 集団教育の対象・テーマの選定</p> <p>2) 地域特性や対象のニーズに応じた教育の目的・目標設定</p> <p>3) 教育効果、対象の利便性及び実施者側の条件を考慮した計画立案</p> <p>4) 対象の主體的な参加を促進する方法の工夫</p> <p>5) 教育の効果を考えた会場設営や進行の方法の工夫</p> <p>6) 対象の生活の営みや理解状況を踏まえた指導案の作成</p> <p>7) 集団における教育的働きかけ</p> <p>8) 集団教育の中で行われる個別の教育的働きかけ</p> <p>9) 教育の効果を高める媒体の作成</p> <p>10) 行動化を促すための動機づけや条件づくりの方法の工夫</p> <p>11) 健康教育の評価計画の立案と評価の実施</p> <p>2. 実施方法</p> <p>5～7 人のグループを編成し、グループ毎に地域住民を対象とする健康教育の計画立案、実施、評価を行う。</p> <p>3. 演習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康教育企画の立案 (評価計画を含む) ・ 指導案の作成 ・ 教育媒体の作成 ・ 健康教育の実施準備 ・ 健康教育の実施 ・ 健康教育の評価 		<p>地域看護学Ⅱ</p> <p>5. 健康教育</p> <p>A. 目的と対象、技術</p> <p>a) 健康教育の目的、特性</p> <p>b) 対象、種類と特性 c) 健康教育に用いる基礎理論</p> <p>B. すすめ方</p> <p>a) 地域のニーズ把握・アセスメント、事業の立案</p> <p>b) 参加対象と参加勧奨</p> <p>c) 指導案づくり・媒体の工夫 d) 実施準備・実践</p> <p>健康教育の評価 e) 事後フォローアップ f) 参加対象への自立支援・組織化</p>

教 科 書	「最新保健学講座2 地域看護支援技術」村嶋幸代編 (メヂカルフレンド社)
参 考 書	

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 II	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病院実習
科 目 の 目 的	対象者への援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1. 看護過程の展開ができる。 2. 基本的な看護援助を根拠に基づき、安全・安楽に実施できる。 3. 相談、報告および看護の記録ができる。 4. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し看護できる。
関 連 科 目	看護学入門、看護学概論、看護過程論、看護ケア方法論、看護ケア方法論演習、看護アセスメント演習の統合が必要である。 3年次以降の科目の基盤となる。
成 績 評 価 方 法	出席状況、レポート、実習記録、実習自己評価表に基づき評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	オリエンテーション	実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して、説明を行う。実習単位に含まれるため、全員必ず出席し、実習に向けての準備を行う。		
	病院実習	病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開しながら既習のものを活用しながら自分の行える範囲で指導者のもと看護援助を実施する。		
	実習反省会	実習目標の到達度及び今後の課題等について発表し、相互の学びとする。また、自己の課題を明らかにする。		

教 科 書	基礎看護学で使用したテキスト全部、基礎看護学実習II実習要綱
参 考 書	

授業科目名	成人看護学実習 I	単位認定者	鈴木 珠 水
対象学年	第 3 学年	学期	後 期
単位数	4 単位 (4 週間)	必修・選択	必修

指導方法	病棟実習
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、慢性的健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。
学習到達目標	1. 慢性期にある患者の特徴が理解できる。 2. 終末期にある患者および家族の特徴が理解できる。 3. アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価ができる。 4. 患者の心身の苦痛を緩和するための援助ができる。 5. 治療検査時の患者の援助ができる。 6. 慢性期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるよう支援できる。 7. 看護活動の記録および報告ができる。 8. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。
関連科目	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進・薬理学・基礎看護学・老年看護学・在宅看護学
成績評価方法	出席状況（実習態度含む）・実習記録およびレポート・実習評価表

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明	必修問題	
	病棟実習	病棟オリエンテーション（病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介	I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 IV. 看護技術の基礎的知識を問う。	
	受け持ち患者に対する看護過程展開	受け持ち患者を紹介してもらい、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。 詳細は「成人看護学実習要綱」参照	人体の構造と機能 目標 1. ●日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 ● 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 基礎看護学 目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う。 目標 2. 基本的看護技術に	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			<p>についての理解を問う。</p> <p>目標 3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。</p> <p>成人看護学</p> <p>目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。</p> <p>目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う・</p> <p>目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。</p> <p>目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。</p> <p>老年看護学</p> <p>目標 1. 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。</p> <p>目標 2. 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。</p>	

教科書	「系統看護学講座 成人看護学 2-15」(医学書院)
参考書	

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 実 習 II	単 位 認 定 者	北 林 司
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	4 単 位 (4 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病棟実習 (医療法人社団日高会 日高病院)
科 目 の 目 的	既習の知識、技術を用いて、急性期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 周手術期にある患者の特徴が理解できる。 2. 手術によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助が理解できる。 3. アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価ができる。 4. 治療検査時の患者の援助ができる。 5. 急性期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるように支援できる。 6. 看護活動の記録および報告ができる。 7. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。
関 連 科 目	解剖学Ⅰ・解剖学Ⅱ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・基礎看護学・老年看護学・在宅看護活動論
成 績 評 価 方 法	出席状況 (実習態度含む)・実習記録およびレポート・実習評価表

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明	必修問題 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 IV. 看護技術の基礎的知識を問う。 人体の構造と機能 目標 1. ●日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 ● 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 基礎看護学 目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問	
	病棟実習	病棟オリエンテーション (病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介		
	受け持ち患者に対する看護過程展開	受け持ち患者を通して、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。 詳細は「成人看護学実習要綱」参照		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			う。 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 目標 3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。 成人看護学 目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。 目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う・ 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 老年看護学 目標 1. 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。 目標 2. 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。	

教科書	「系統看護学講座 成人看護学 1-15」(医学書院)
参考書	

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	兔 澤 恵 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	4 単 位 (4 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病院および施設実習
科 目 の 目 的	老年期にある対象者を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として、既習の知識・尊重する態度・技術を活用し、対象者に応じた看護を展開する能力を養う。
学 習 到 達 目 標	1) 老年期にある人の加齢変化や疾病による健康問題、生活行動、人生観やニーズなどの特性を観察、フィジカルアセスメント、コミュニケーションなどを通じてアセスメントし、理解する。 2) 老年期にある人の看護問題に応じた個別的なケアプランを立案し、実践・評価する。 3) 老年期にある人の特性や自立、安全に応じたケア技術の実践方法を習得する。 4) 老年期にある人の尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を習得する。 5) 老年期にある人へのケアに関わる保健医療福祉の各専門職の役割と機能と連携について学習する。
関 連 科 目	成人老年看護学概論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年心理学
成 績 評 価 方 法	出席状況（実習態度を含む）、実習記録およびレポート、実習反省会での内容

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項などに関する説明を行う。		
	病院実習	病院において対象者を1名受け持ち、看護過程を展開し評価を行う。また、高齢者の利用する施設において多様な障害を抱えながら生活している様子を見学学習し、対象理解を深める。		
	実習反省会	病院実習で学んだことについて報告および質疑応答を行い、相互に学びを深める。		

教 科 書	「新体系看護学 26 老年看護学① 老年看護学概論・老年保健」鎌田ケイ子・川原礼子編集（メジカルフレンド社） 「新体系看護学 27 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護」鎌田ケイ子・川原礼子編集（メジカルフレンド社）
参 考 書	検査、薬剤に関する参考書

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨床実習
科 目 の 目 的	成長・発達過程にある子どもの特徴を理解し、病気や障害があること、治療を受けることや病院に入院することが、子ども自身や家族にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。さらに、子どもと家族がいきいきと生活できるための看護職としての援助の方法を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1. 子どもの日常生活に接し、子どもの特性を理解する。 2. 子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのように影響されているのかを知る。 3. 子どもや家族とのかかわりを通して、発達段階に応じた子どもとのコミュニケーションの展開方法を学ぶ。 4. 子ども・家族にとって必要な援助を考え、実施・評価する。 5. 子どもが医療を受けるさまざまな場と小児看護の特徴、保健医療チームにおける看護職の役割を学ぶ。
関 連 科 目	母性・小児看護学（小児看護学概論、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論）、臨地実習、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群（心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など）、臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか）、地域科目群（公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか）
成 績 評 価 方 法	出席、実習内容、レポートによって総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
		<p>1. 実習場所</p> <p>1) 群馬県立小児医療センター 第一病棟、第二病棟、 新生児未熟児病棟(NICU)、母子保健指導室、リハビリテーション科、養護学校など</p> <p>2) 公立富岡総合病院 5階病棟（小児科、新生児未熟児科）など</p> <p>2. 実習内容・方法 詳細は、実習要項において別途指示する</p>	<p>【目標1】</p> <p>1. 子どもと家族の健康の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子どもの健康増進のための看護</p> <p>【目標2】</p> <p>1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族 E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族 H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族</p>	

教 科 書	1. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第 11 版」奈良間美保他著（医学書院）2007 2. 「標準看護学講座 29 小児看護学」小沢道子他編（金原出版）2001 3. 「ナーシング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編（メディカ出版）2007.
参 考 書	1. 「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント3-4章2節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子（メディカ出版）2004. 2. 以下、別途指示する

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	早 川 有 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実 習
科 目 の 目 的	妊娠・分娩・産褥期及び新生児を総合的にとらえ看護過程を展開する。また、母子の看護に必要な基礎的実践能力を養う。
学 習 到 達 目 標	1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対する個別的な援助について理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の援助を実施するために必要な基本的技術が習得できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の健康を保持増進するために必要な援助（健康教育）について学ぶ。
関 連 科 目	教養科目群：生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群：発達心理学 免疫感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学実習・地域看護学実習等）
成 績 評 価 方 法	課題に対するレポート、出席状況、実習態度にて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
		実習期間：2週間 実習は、学内演習2日間、病棟実習（看護過程展開4日間）、選択実習（妊婦外来、不妊外来・妊婦・産婦・新生児の病棟、ヨガ教室4日間）からなる。実習開始日に病棟・外来のオリエンテーションを含む全体オリエンテーションを行い、最終日に全体カンファレンスを行なう。学生は1グループ5～6名のグループに分かれて実習する。 ＊ 詳細は実習要項に記載する。		

教 科 書	妊・産・褥婦のよくあるトラブル 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ
参 考 書	

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	齋 藤 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨床実習
科 目 の 目 的	人の各期（小児期、青年期、壮年期、老年期）の特性を理解し、対象を総合的に捉え看護を実践する能力を養う。
学 習 到 達 目 標	1. 人の各期の生理的变化とそれに伴う危機的問題を理解できる。 2. 精神障害をもつ対象を理解し、健康回復のために必要な援助ができる。 3. 対象の看護上の問題を把握し、看護計画を立案・実施・評価できる。
関 連 科 目	精神看護学概論 精神臨床看護学 精神地域看護学
成 績 評 価 方 法	課題に対するレポート、出席状況、実施態度にて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	臨地実習	実習単位 2単位（2週間） 火曜日～金曜日 8日間 実習場所 厩橋病院 実習時間 原則として9時～16時 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> I. オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 1. 病院の特殊性について 2. 看護業務分担について 3. 日課、週間予定表について 4. 診療用具、看護用具、その他機械器具の保管場所 5. その他 II. 実習の進め方 <ul style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者の看護 2. 看護過程にそった看護の展開 3. カンファレンスの実施 III. 実習記録の提出 IV. 実習評価 		

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 実 習	単 位 認 定 者	大 野 絢 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨地実習
科 目 の 目 的	在宅療養者とその家族に対する総合的な理解を深め、在宅ケアにおける看護の役割と支援方法、援助技術、在宅支援システムの実際について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1. 在宅看護の対象となる在宅療養者とその家族の特徴が理解できる。 2. 在宅ケアにおける看護の役割が理解できる。 3. 在宅療養者とその家族を対象とする支援方法が理解できる。 4. 訪問看護ステーションの機能・役割が理解できる。 5. 在宅ケアシステムの仕組みと活動の方法が理解できる。
関 連 科 目	在宅看護活動論 他 教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群の全ての科目
成 績 評 価 方 法	出席状況、実習態度、実習記録、実習のまとめレポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	オリエンテーション 訪問看護ステーション実習 実習のまとめ	<p>実習の目的、目標、方法、留意事項等に関する説明</p> <p>実習場所： ①青梨子訪問看護ステーション ②はたか訪問看護ステーション ③訪問看護ステーションホームナース ④群馬県看護協会訪問看護ステーション ⑤訪問看護ステーション前橋南 ⑥訪問看護ステーション渋川</p> <p>実習方法・内容： ※詳細は実習要項に記載する。</p> <p>実習をとおしての学びや反省を個人レポートにて報告するとともに、実習目標の到達状況を振り返り、今後の学習課題を明確にする。 また、在宅看護実習の実習体験を学生間で共有し、在宅ケアに関わる援助技術、在宅療養者を支えるケアシステムとそれに関わる専門職の役割について、実習指導者および教員を交えて学習を深める。 ※詳細は実習オリエンテーション時に説明する。</p>		

教 科 書	<ul style="list-style-type: none"> ・「在宅看護論―実践をこぼに―第4版」杉本正子・眞船沢子（ヌーベルヒロカワ） ・最新保健学講座 5. 地域看護活動論②心身の健康問題と保健活動（メジカルフレンド社）・国民衛生の動向 2008 ・在宅看護・介護技術テキスト/指導用リーフレット/講義用指導案（上武大学出版会） ・在宅看護実習要項 ・看護学で使用したテキスト全部
参 考 書	

授 業 科 目 名	地 域 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	前 期
単 位 数	3 単 位 (3 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実習
科 目 の 目 的	地域社会の生活集団を対象とした看護活動の方法と看護の展開に必要な技術を学び、看護専門職の役割を理解する。
学 習 到 達 目 標	1. 住民の健康に影響する要因と、住民の健康を守るために有効な地区活動の展開方法がわかる。 2. 地域における保健師の活動形態の特質がわかり、地域看護の基本的技術を実施できる。 3. 保健医療福祉システムを有効に機能させるための看護専門職の役割がわかる。
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護活動論Ⅰ、地域看護活動論Ⅱ、地域看護活動論Ⅲ
成 績 評 価 方 法	実習内容、レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
		1. 実習場所 ・ 渋川・沼田・中之条保健福祉事務所、並びに管内市町村保健センター ・ サンデン株式会社赤城事業所 2. 実習時期 4-7月 3. 実習内容 実習施設における地域保健活動の実際と、そこに勤務する保健師の活動をとおして地域看護活動の展開方法と保健師の役割を学ぶ。 ※詳細は、実習要項において別途提示する。		

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	卒 業 研 究	単 位 認 定 者	学 科 教 員
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	通 年
単 位 数	4 単 位 (6 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演習
科 目 の 目 的	看護学における研究課題を学生自ら主体的に探求することをおして、総合的な理解力を養う。看護学及びそれに関連する以下の領域から、学生自身が講義・演習・実習をおして興味をもったテーマを選定し、看護学研究論で学んだ理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その結果を発表・論文化する。
学 習 到 達 目 標	各講座指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画を立て、実施し、その結果について論文を作成する。
関 連 科 目	既習の科目全てと関連する
成 績 評 価 方 法	論文

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 ～ 60	文献検索 研究計画立案 実施 論文作成	各講座指導教員の指導により研究計画を立て、実施し、その結果を論文として仕上げる。 基礎看護学に関する研究 指導教員：城生弘美、真砂涼子、馬醫世志子 成人看護学に関する研究 指導教員：(慢性期)牛込三和子、鈴木珠水、萩原英子 (急性期)北林司 老年看護学に関する研究 指導教員：伊藤まゆみ、兎澤恵子 母性看護学に関する研究 指導教員：早川有子 小児看護学に関する研究 指導教員：柴崎由佳 精神看護学に関する研究 指導教員：青柳直樹 地域・在宅看護学に関する研究 指導教員：大野絢子、矢島正栄、小林亜由美、小林和成、王麗華		

教 科 書	
参 考 書	

